

21世紀を展望した

# 福井県スポーツ振興プラン

—豊かなスポーツライフの創造—

平成10年3月

福 井 県  
福井県教育委員会

# ごあいさつ

福井県知事  
栗田幸雄

近年、わたしたちの生活を豊かにするものとしてスポーツの果たす役割が増大し、「するスポーツ」「みるスポーツ」など県民の関心が一段と高まってきました。

本県では、県民総スポーツの振興や競技力の向上などスポーツ振興諸施策を推進するとともに、スポーツイベントの開催やスポーツ施設の整備に努めてきましたが、ますます多様化・高度化するスポーツニーズに対応するため、21世紀という新しい時代に向けて、長期的・総合的なスポーツ振興策を明確にすることが必要となりました。

このため、運動・スポーツに関する調査を実施し本県の現状を把握するとともに、福井県スポーツ振興審議会の答申に基づき、「21世紀を展望した福井県スポーツ振興プラン」を策定しました。

このプランは「生涯にわたるスポーツの推進」を基調に、県民が各ライフステージにおいて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しめる「豊かなスポーツライフの創造」を目指しています。

今後、このプランに基づき中長期的な視点を持ちながら、計画的にスポーツ振興諸施策を推進し目標の実現に努めますので、市町村、関係団体ならびに県民の皆様の御理解と御協力をお願いします。

終わりに、福井県スポーツ振興審議会委員の皆様をはじめ、このプランの策定に当たり御尽力いただきました関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

ごあいさつ

福井県教育委員会

教育長 稲澤 俊一

本県では、「活力を育む県民総スポーツ」を目標に、各種スポーツ振興施策を推進するとともに、県民体育大会の開催、県スポーツ・レクリエーション祭の開催、ならびに世界体操選手権大会等のスポーツイベントの開催に努めてきました。

しかしながら、近年、自由時間の拡大、高齢者の増大、生活水準の向上等による社会環境と生活様式の変化により、生きがいや心の豊かさ、健康の保持増進などを目的としたスポーツへのニーズが一層高まっており、各年齢層の特性に応じたスポーツライフの実現が求められております。

この度、「21世紀を展望した福井県スポーツ振興プラン」を策定し、県民の多様なスポーツニーズに対応できるスポーツ振興施策を推進し、各ライフステージにおいてスポーツが生活に根付いた「生涯スポーツ社会」の実現に努めることとなりました。

また、このプランは平成22年（2010年）を目標年次とし、福井県新長期構想や各年次計画等において具体的に反映させながらその実現に努めますので、市町村、関係団体ならびに県民の皆様の御理解と御協力をお願いします。

終わりに、このプランの策定に当たり御尽力いただきました関係者の方々に心から厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

# 目 次

## 第 1 部 スポーツ振興プランの基本的な考え方

第 1 章	スポーツ振興プランの基本的方向	2
1	スポーツ振興プラン策定の目的	2
2	スポーツ振興プランの基本理念	3
3	スポーツ振興プランの位置づけ	3
第 2 章	社会の現状とスポーツ	4
1	科学技術の発達	4
2	情報化の進展	4
3	国際化の進展	5
4	人間関係の希薄化	5
5	高齢社会の到来	6
6	少子化の進行	7
7	自由時間の拡大とライフスタイルの多様化	8
8	自然志向の高まり	9
第 3 章	運動・スポーツの現状と課題	10
1	生涯スポーツ	10
2	競技スポーツ	12
3	学校における体育・スポーツ	14
4	地域におけるスポーツ	16
5	スポーツ国際交流	17
6	スポーツ施設	18
7	スポーツ推進体制	21

## 第 2 部 スポーツ振興施策

第 1 章	生涯スポーツの充実	26
1	生涯スポーツ団体の育成	26
(1)	生涯スポーツ団体の育成	26
(2)	総合型地域スポーツクラブの育成	26
2	指導者の養成・研修と活用	28
(1)	地域スポーツ指導者の養成と資質向上	28
(2)	スポーツ・リーダーバンクの充実	28
3	生涯スポーツ活動の機会拡充	28
(1)	生涯スポーツイベントの機会充実	28
(2)	生涯スポーツ活動の促進	30
(3)	職場スポーツ活動の促進	30
(4)	高齢者、障害のある人の参加促進	30
(5)	ふくい健康の森の活用	30
4	各種体育・スポーツ施設の有効活用	31

<b>第2章 競技スポーツの充実</b> .....	32
1 競技力の向上 .....	32
(1) 競技スポーツ関係団体の連携強化 .....	32
(2) 競技スポーツ指導者の養成と資質向上 .....	32
(3) 審判員の養成・確保と資質向上 .....	32
(4) 小・中・高・成年の一貫指導・強化体制の確立 .....	33
(5) 競技力向上対策事業の充実 .....	33
(6) スポーツ医・科学推進体制の確立 .....	34
(7) スポーツ大会の開催 .....	34
(8) 各種スポーツ大会への派遣 .....	35
2 スポーツ観戦の機会充実 .....	35
<b>第3章 学校における体育・スポーツの充実</b> .....	36
1 学校体育の充実 .....	36
(1) 体育学習の充実 .....	36
(2) 教育活動全体を通しての体育活動の推進 .....	37
(3) 学校体育研究活動の充実 .....	37
(4) 健康の保持増進と体力向上の促進 .....	38
(5) 学校体育指導者の資質向上 .....	38
(6) 民間指導者の活用 .....	39
2 運動部活動の推進 .....	39
(1) 運動部活動のあり方の検討 .....	39
(2) 運動部活動指導者の研修・活用 .....	39
(3) スポーツ医・科学の活用 .....	39
<b>第4章 地域におけるスポーツの振興</b> .....	40
1 地域スポーツ活動の促進 .....	40
(1) スポーツクラブの育成 .....	40
(2) クラブの活動拠点の確保 .....	40
(3) 指導者の確保と活用 .....	40
(4) スポーツ少年団の育成 .....	41
2 職場スポーツ活動の促進 .....	41
3 スポーツ大会の開催促進 .....	41
<b>第5章 スポーツ国際交流の推進</b> .....	42
1 国際スポーツ大会の開催 .....	42
2 スポーツ国際交流の機会充実 .....	42
(1) スポーツ選手の派遣・受入れ .....	42
(2) スポーツ指導者の派遣・受入れ .....	43
<b>第6章 スポーツ施設の整備・充実</b> .....	44
1 地域および市町村域のスポーツ施設の整備 .....	44
2 広域的なスポーツ施設の整備 .....	44
3 県域のスポーツ施設の整備 .....	45
4 野外運動・スポーツ施設の整備・充実 .....	47
5 民間スポーツ施設の活用 .....	47
6 学校体育施設の整備と地域への開放 .....	47
(1) 学校体育施設の整備 .....	47
(2) 学校体育施設の開放の促進 .....	47

第7章	スポーツ推進体制の整備・充実	48
1	スポーツ推進組織・団体の活動促進	48
(1)	体育・スポーツ行政組織の整備・充実	48
(2)	生涯スポーツ団体の組織整備と活動促進	48
(3)	競技スポーツ団体の組織充実と活動促進	49
(4)	学校体育団体の活動促進	49
(5)	体育・スポーツの顕彰	49
2	スポーツ医・科学推進体制の整備	50
3	スポーツ情報サービス機能の整備	50
4	体育・スポーツの安全対策の充実	50
5	スポーツ振興のための支援	51
(1)	スポーツボランティア活動の振興	51
(2)	スポーツ振興のための財源の確保	51

## 第3部 年次計画

1	生涯スポーツの充実	54
2	競技スポーツの充実	55
3	学校における体育・スポーツの充実	56
4	地域におけるスポーツの振興	57
5	スポーツ国際交流の推進	57
6	スポーツ施設の整備・充実	58
7	スポーツ推進体制の整備・充実	59

## 資料編

社会体育指導者	2
スポーツ施設の概要	3
豊かなスポーツライフの指針	4
体力づくりのための運動指針	5
スポーツ施設の整備の指針	6
県民のスポーツ活動の現状	7
用語解説	10

# 21世紀を展望した 福井県スポーツ振興プランの構成

基本理念

## 社会の現状とスポーツ

### 社会の現状

- 科学技術の発達
- 情報化の進展
- 国際化の進展
- 人間関係の希薄化
- 高齢社会の到来
- 少子化の進行
- 自由時間の拡大とライフスタイルの多様化
- 自然志向の高まり

### スポーツの意義

- 体力の向上
- 健康の保持増進
- 楽しみと喜び
- 仲間との交流
- 生きがい
- 爽快感、達成感等の精神的な充足
- ストレスの解消
- 自己実現
- 活力ある社会づくり
- 国際交流

## 運動・スポーツの現状と課題

### 現状と課題

- スポーツが県民の生活に根付くように、スポーツの機会を豊かに提供する必要がある
- 一貫指導体制の構築等競技力の向上と各種スポーツ大会の開催が求められている
- 児童生徒の身体活動機会が減少しているため、体力の向上と運動習慣の形成に努める必要がある
- 生涯にわたりスポーツに取り組めるよう、スポーツクラブの育成と指導者の確保等に努める必要がある
- 国際交流と国際協力を推進するため、国際スポーツ大会の開催と選手・指導者の交流が求められている
- 「するスポーツ」「みるスポーツ」など、年々増大し多様化するスポーツニーズに対応できる施設の整備を図る必要がある
- スポーツ活動の活性化を図るため、支援体制の整備に努める必要がある

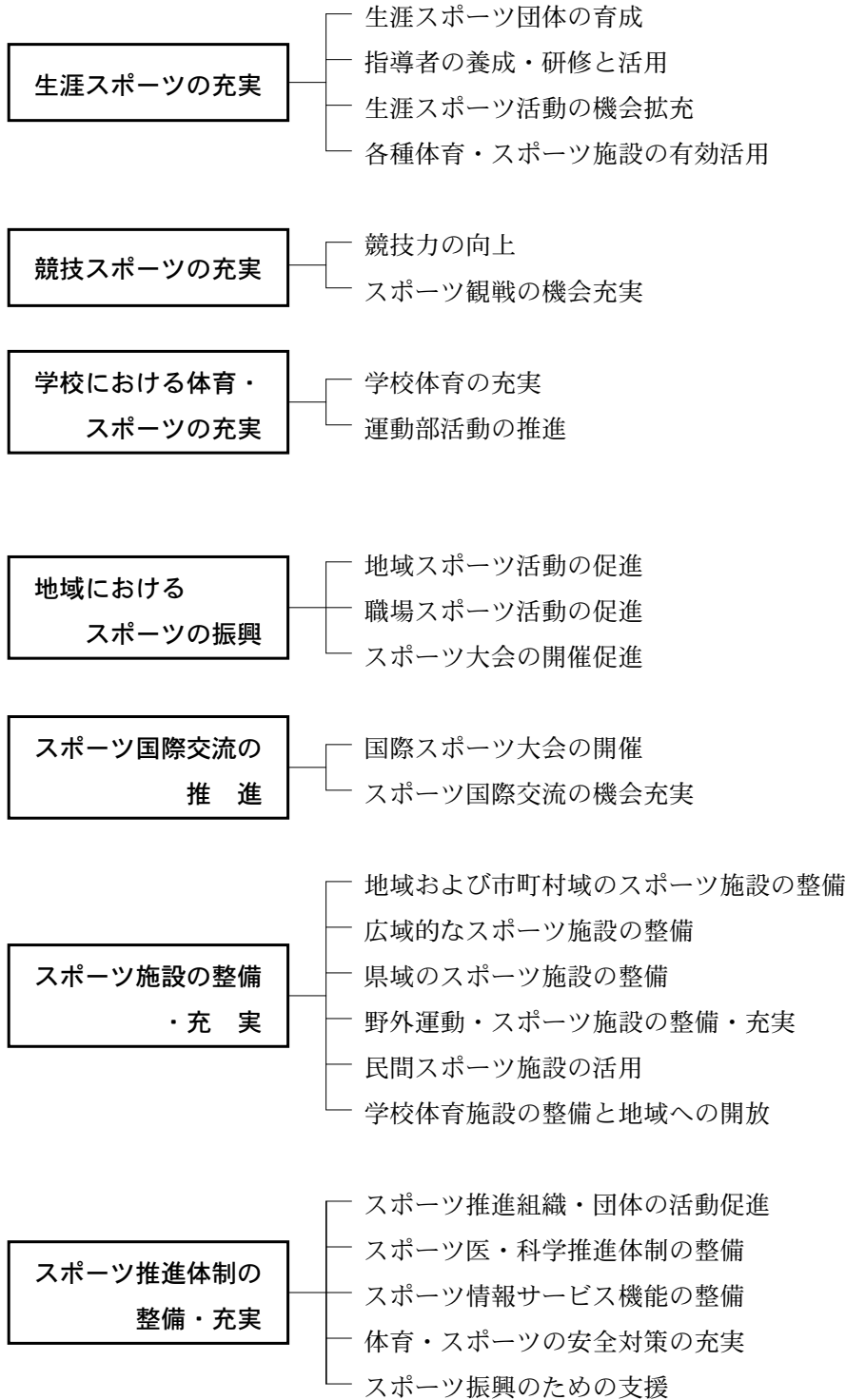
県民一人一人の生活の中にスポーツが位置づけられた社会

生涯スポーツ社会づくり

基本施策

具体的な施策

目標





# 第 1 部

## スポーツ振興プランの 基本的な考え方

**第 1 章** スポーツ振興プランの基本的方向

**第 2 章** 社会の現状とスポーツ

**第 3 章** 運動・スポーツの現状と課題

# 第 1 部 スポーツ振興プランの基本的な考え方

## 第 1 章 スポーツ振興プランの基本的方向

### 1 スポーツ振興プラン策定の目的

21世紀生涯学習社会に向かって、「心の豊かさ」や「ゆとりある生活、生きがい」を大切にする人々がますます増大しつつある今日、さまざまな活動への取り組みがみられるようになり、生活文化の一翼を担うスポーツへのニーズや意義が高まっています。

特に、本県で開催された1995年世界体操競技選手権鯖江大会や福井県スポーツ・レクリエーション祭の開催などにより、県民の「するスポーツ」「みるスポーツ」への関心は一段と高まりをみせています。

また、平成16年には全国スポーツ・レクリエーション祭が本県で開催されるとともに、2巡目の国民体育大会や全国高等学校総合体育大会という我が国を代表するスポーツ大会の開催も想定され、本県スポーツ界は21世紀初頭に大きく飛躍する絶好の機会を迎えています。

スポーツ活動は、人間が体を動かし個性を表現したいという本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的な充足や楽しさ、喜びを与えてくれます。

特に、複雑・高度化する社会や高齢社会の中にあっては、ストレスの解消、生きがいのある生活、健康や体力の保持増進を図る上でもかけがえのないものとなっています。

本県では、これまでも福井県新長期構想等で県民総スポーツの振興や競技力の向上など、スポーツ振興について諸施策を展開していますが、本県のスポーツを取りまく諸情勢や県民のスポーツニーズが大きく変化してきており、高齢化や少子化といった人口構成の変化に対応した新たな視点や、積雪期間が長いという本県の地域性等を視点においたスポーツ振興施策の推進が求められています。

このような状況を踏まえ、子供から高齢者や障害のある人まで、県民のだれもが四季を通じて、いつでも、どこでもスポーツに親しめる、**生涯にわたるスポーツの推進**を基調とした、長期的、かつ総合的な方策を明らかにするため、スポーツ振興プランを策定します。

## 2 スポーツ振興プランの基本理念

21世紀という新しい時代に向けて、福井県は「豊かなスポーツライフの創造」を目標に、県民一人一人の生活の中にスポーツが位置づけられている社会を目指します。

スポーツの生活化を図ることで、楽しく元気で健康な生活を送ることができ、だれもが人生の各ライフステージで、それぞれの欲求や体力、目的等に応じて、いつでも、どこでも「するスポーツ」「みるスポーツ」が楽しめる生涯スポーツ社会づくりをねらっています。

ラ イ フ ス テ ー ジ	
区 分	概 ね の 年 齢 層
乳 幼 児 期	～ 6歳頃 : 幼稚園
児 童 期	～ 12歳頃 : 小学校
青 年 期 前 期	～ 18歳頃 : 中・高校
青 年 期 後 期	～ 25歳頃 : 高等教育段階・就職
壮 年 期	～ 30歳代頃 : 就労
中 年 期	～ 60歳代頃 : 就労・退職
老 年 期 前 期	60歳代頃以降
老 年 期 後 期	75歳代頃以降

平成9年  
保健体育審議会  
答申より

## 3 スポーツ振興プランの位置づけ

このスポーツ振興プランは、中長期的な視点を持ちながら平成22年（2010年）を目標年次とし、実施に当たっては県の新長期構想や各年次計画等において具体的に反映させることとします。

## 第 2 章 社会の現状とスポーツ

### 1 科学技術の発達

科学技術の発達により、我々の日常生活に数多くの利便性や快適性がもたらされましたが、その反面、人々の生活は「ゆとり」を失い慌ただしいものになるとともに、日常の運動が慢性的に不足し、体力の低下や肥満など生活習慣病等が増加しています。

このような社会環境の中で、スポーツは心身ともに健康で豊かな生活を営む上で、今後その重要性がさらに認識され、生活上欠くことのできないものになっていくと考えられます。

### 2 情報化の進展

高度情報化はスポーツの面においても、国内外の多様なスポーツ番組を提供したり、インターネットによりスポーツ施設やイベントの情報入手を可能にするなど、人々のより豊かなスポーツライフを支える大きな要素となるものと考えられます。

一方、情報化の進展による利便化は、人々の屋外での活動など身体活動機会や人との直接的なふれあいを減少させる一面もあるため、今後は効率的なメディアの活用と積極的なスポーツへの取り組みが必要になるものと思われます。

### 3 国際化の進展

人・物・情報などが国境を越えて行き交う、いわゆるボーダレス時代を迎え、教育・文化・スポーツ等の分野において国際的な交流や協力を深め、相互理解を図ることは、国レベルのみならず地方レベルにおいても重要になってきています。

このような社会潮流の中、スポーツは、言語の障害を越えて同一のルールのもとで行われる世界共通の文化として相互理解を図る上で重要な役割を果たすため、今後スポーツを通じた国際交流がますます進展するものと思われます。

### 4 人間関係の希薄化

都市化や高度管理社会、核家族化、少子化の進行など社会環境の変化により地域社会や家庭内でのふれあいが減少しています。このため、人々の心のきずなは弱まり人間関係が希薄化するとともに孤独感や精神的ストレスを増大させています。

また、近年の傾向として、人々は従来 of 地域社会における地縁的な活動とともに、同じ目的や興味・関心によって集い、活動を楽しむ目的指向的な活動も求めつつあります。

このような社会環境の中で、人々にふれあいの場を提供し、仲間との交流を図ることのできるスポーツ活動は、人間関係を豊かにするものとして今後の生活の中で欠くことのできないものになっていくと考えられます。

## 5 高齢社会の到来

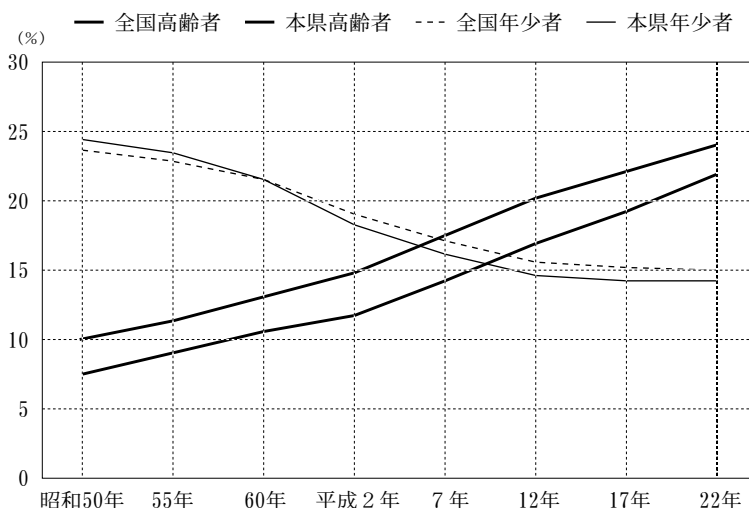
本県の人口は、医科学の進歩、保健衛生の向上、生活水準の向上等を背景に平均寿命が伸長するとともに、出生率が低下しているため急速に高齢化しており、高齢者人口（65歳以上）の割合は17.7%（全国19位）と、全国の14.6%より大幅に進んでいます。

また、近い将来には、高齢者が全人口の4分の1を占めることも予想されています。

人生80年時代を迎えた今日、高齢者が健康で生きがいのある生活を求め、生活の中に積極的にスポーツを取り入れようとする傾向が、今後ますます高まるものと思われます。

高齢者・年少者人口割合の推移

（平成8年厚生省人口問題研究所調べ）



### 高齢者の人口割合（66歳以上の人口）の推移

区分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
福井	10.1%	11.5%	12.8%	14.8%	17.7%	20.3%	22.0%	23.7%
全国	7.9%	9.1%	10.3%	12.1%	14.6%	17.2%	19.6%	22.0%

### 年少者人口割合（0歳～14歳までの人口）の推移

区分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
福井	23.6%	22.9%	21.5%	18.9%	17.0%	15.8%	15.3%	15.1%
全国	24.3%	23.5%	21.5%	18.2%	16.0%	14.7%	14.3%	14.3%

## 6 少子化の進行

高齢化の進展と相まって、女性の社会進出の増大や高学歴社会の到来、就労と子育ての両立の難しさなどにより出生率が低下し少子化が進行しています。

本県の年少人口（0～14歳）の割合は、昭和40年の26.2%から平成7年には17.0%に低下し、平成22年には15.1%になると見込まれています。

このような社会環境の中でのスポーツ活動は、他者と相和して活動を行うという特徴をもつことから、少年期の心身の健全な発達を促し、一人一人の個性の伸長と学年の枠を越えた望ましい人間関係を育てるとともに、「生きる力」を育む上で重要な役割を果たすようになると思われます。

## 7 自由時間の拡大とライフスタイルの多様化

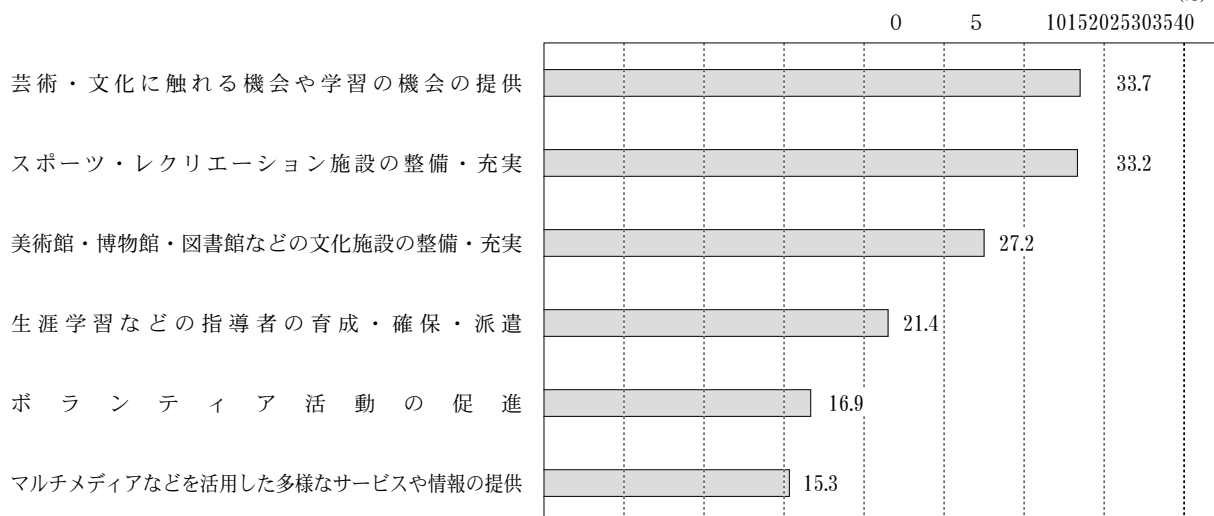
週休2日制の普及や学校週5日制の実施、生活の利便化、平均寿命の伸長等により、自由時間が各年齢層にわたり拡大するとともに、生活水準の向上と相まって、人々は多様な余暇活動を求めています。

今後、自由時間の拡大により、県民のスポーツに対するニーズが一層高まり、「するスポーツ」「みるスポーツ」など多様なスポーツ活動が展開されていくものと予想されます。

### 生涯学習や余暇活動について望むこと

県民意識調査（平成8年度・福井県広報課）

(%)



(福井新聞社 提供)

## 8 自然志向の高まり

複雑・高度化する社会の中で、ストレスの解消や心の安らぎなどを求めて、自然とのふれあいを志向する人々が増加してきています。

本県は日本海側の中央に位置し、県土の74.8%が森林に覆われ、山、海、河川等の自然環境に恵まれるとともに、冬季には降雪があり四季の変化に富んでいます。

今後、自然環境を活かしたキャンプやウインタースポーツなどの野外スポーツを通して、自然の素晴らしさに親しみ、心の豊かさを大切にする傾向がますます高まっていくものと思われます。

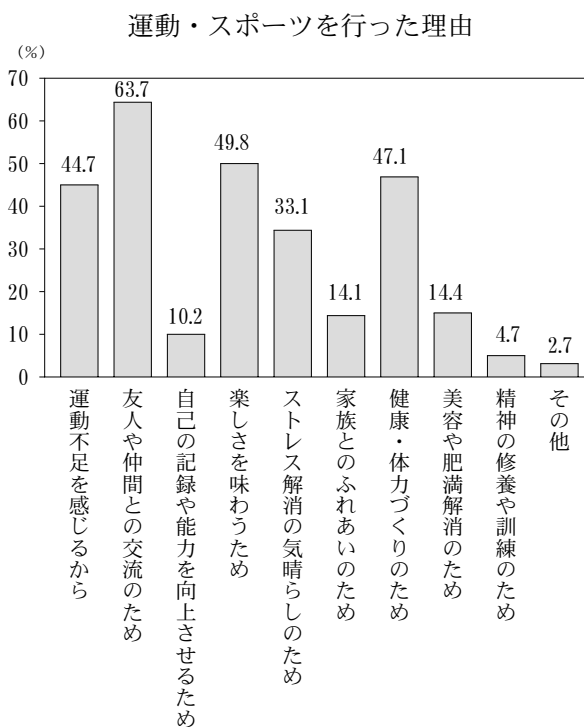
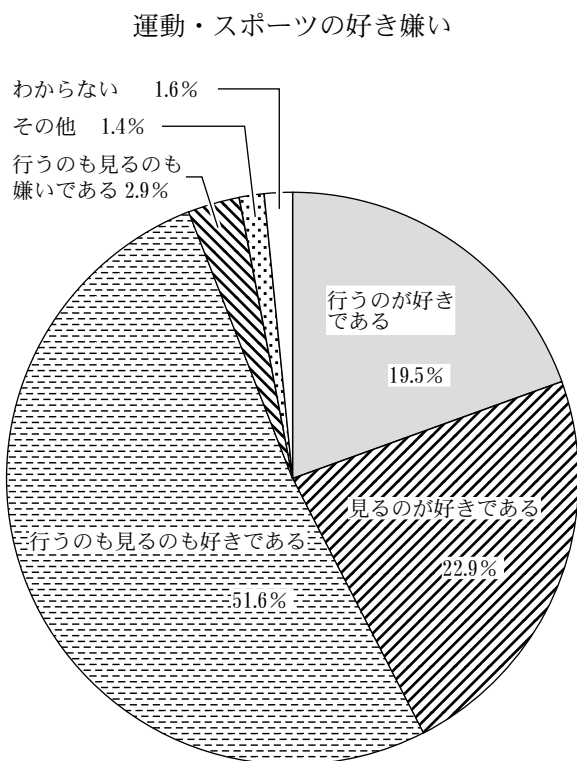
### 第3章 運動・スポーツの現状と課題

#### 1 生涯スポーツ

生涯スポーツの振興については、県民総スポーツを目標にスポーツ大会やスポーツ教室の開催、スポーツ施設の整備等、各種の生涯スポーツ振興事業を推進するとともに、昭和50年からの社会教育主事（スポーツ担当）派遣制度により地域住民の生活の中に体育・スポーツ活動が定着するように努めてきました。

県政アンケート（県民の運動・スポーツに関する意識調査－平成8年度実施）によると「運動・スポーツが好きの人」94.0%、「週に1回以上運動・スポーツをする人」41.7%など、多くの県民は運動・スポーツに関心を持つとともに、公共スポーツ施設や学校体育施設など身近なスポーツ施設で「友人や仲間との交流」「楽しみや気晴らし」「健康の保持増進・体力づくり」などを求めて運動・スポーツに取り組んでいます。

しかしながら、「仕事が忙しくて時間がない」「機会がなかった」「年をとった」などの理由から運動・スポーツを行わなかったり、若者の地域スポーツ行事離れ、スポーツ教室への参加率やスポーツクラブへの加入率が十分でないなど、運動・スポーツが県民の生活の中に十分に取り入れられているとはいえない面があります。



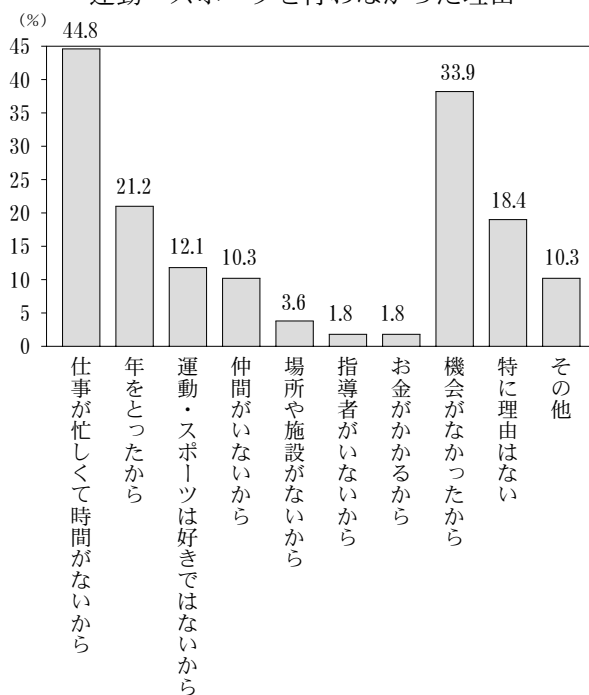
また、県民はスポーツ振興のため、指導者の養成や各種スポーツ行事・大会・教室の開催、野外スポーツ活動施設の整備等を求めるとともに、今後行いたい運動・スポーツとして、50歳以上の者は「比較的軽い運動・スポーツ」を求め、20歳代から40歳代の若者や家族は「比較的広域にわたる野外スポーツ」を求めています。

また、少子化の進行やゲーム機等による屋内での遊びの増加から子ども達の身体活動機会が減少しているため、幼児期から運動・スポーツに親しむ習慣の形成が望まれています。

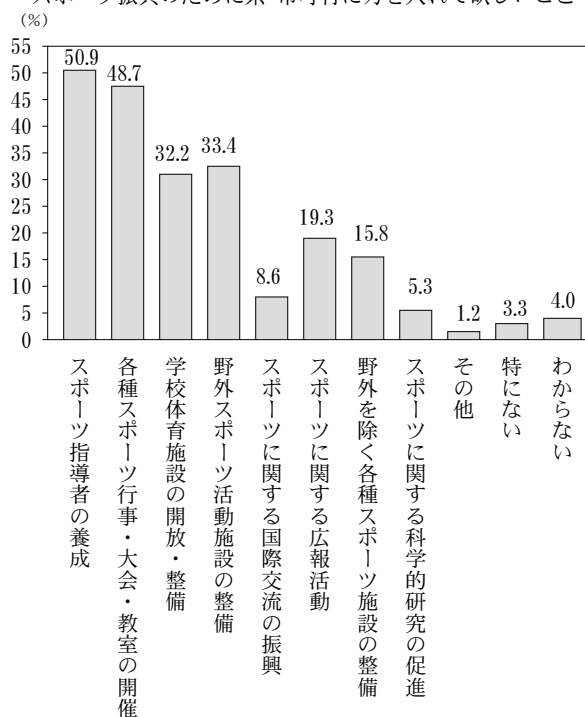
今後、このような県民の多様なニーズと各ライフステージの特性に応じたスポーツを豊かに提供することによって、スポーツを県民の生活の中に根付かせることが求められています。

また、本県の積雪期間が長いといった地域特性も考慮したスキーやスケート等のウインタースポーツと、恵まれた自然環境を活かしたアウトドアスポーツの普及振興についても積極的に取り組むことが求められています。

運動・スポーツを行わなかった理由



スポーツ振興のために県・市町村に力を入れて欲しいこと

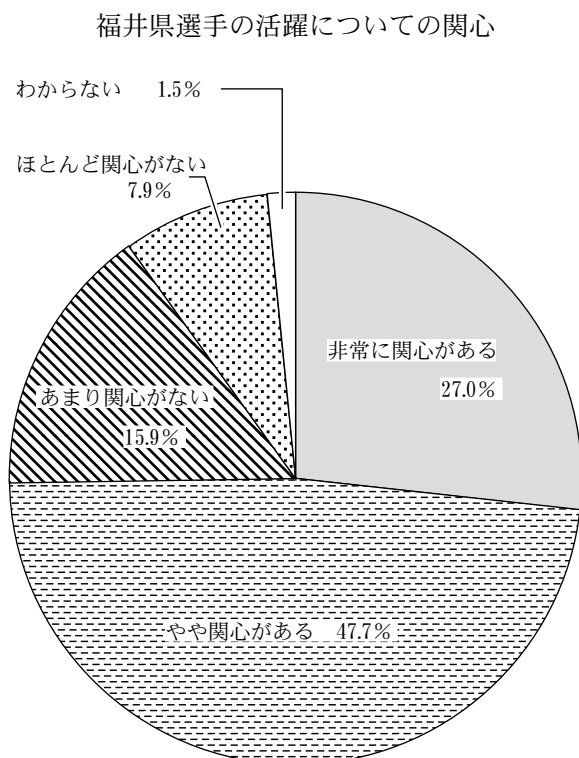


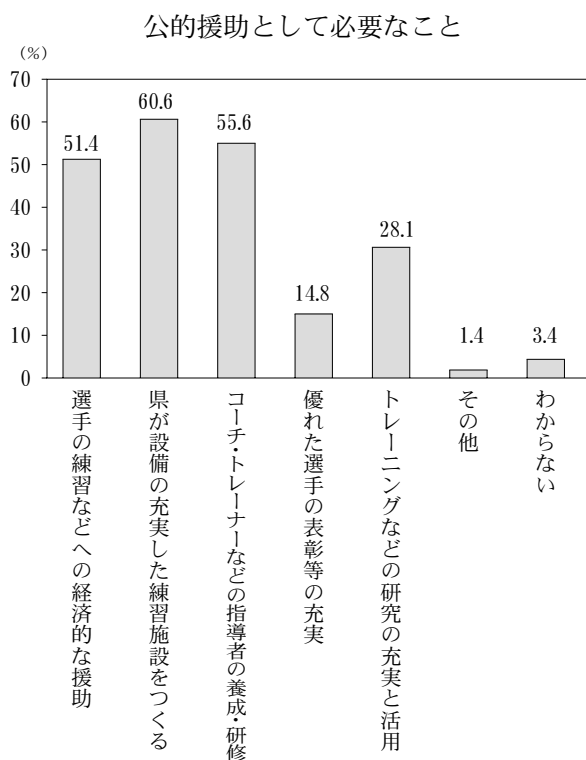
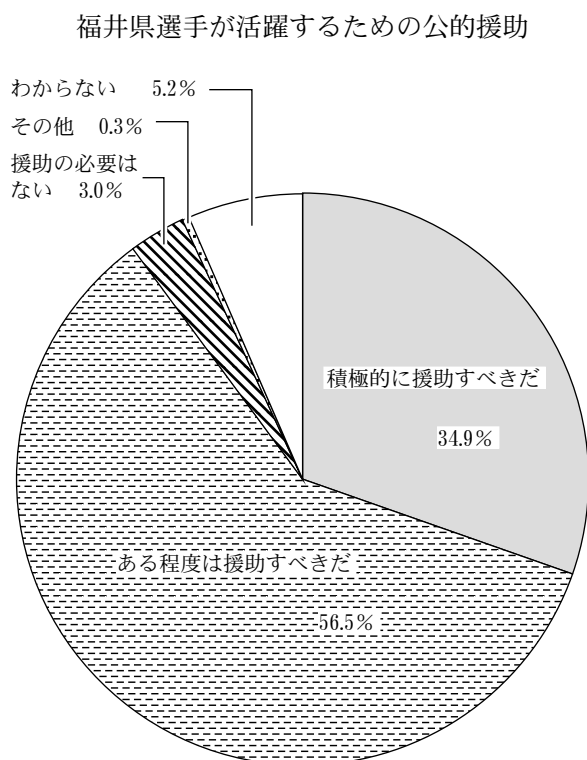
## 2 競技スポーツ

本県の競技スポーツは昭和43年の福井国体を契機に競技力の向上が図られ、その後も競技力向上基本計画等の実施や競技団体等の努力により、漕艇競技や体操競技などの競技については国内でトップレベルにあり、その他の競技でもインターハイや各種の全国大会、国際大会で活躍できる選手を輩出しています。

また、各種の全国大会や国際大会の開催にも取り組み、県民のスポーツへの関心を高めるとともに本県スポーツの活性化に努めてきました。

しかしながら本県は、(財)福井県体育協会や競技団体組織の整備・充実、競技人口の拡大と指導者の確保、ジュニア期からの一貫指導体制の構築、本県出身選手の受け皿の確保など、今後取り組むべき課題を多く抱えています。





県政アンケートによると、競技スポーツは30歳代までの若者を中心に取られ、県民は本県選手の大会での活躍に74.7%と高い関心を示しています。

また、競技力向上のための公的な援助や練習施設の整備、指導者の養成と研修にも理解を示しています。

本県選手の活躍は、県民の郷土への関心や愛着を高めるとともに、スポーツに対する興味や意欲を喚起し、生涯スポーツの振興を図る上でも大きな意義を持つことから、本県の地域特性に応じた競技の振興と将来の2巡目国民体育大会の本県開催も視野に入れ、これら課題への積極的な取り組みと本県競技力の総合的な向上を目指し、計画に基づいた施策の展開が急がれます。

### 3 学校における体育・スポーツ

学校における体育・スポーツは、児童生徒の心身の健全な発達を促すとともに、一人一人の個性を伸ばし、望ましい人間関係を育てる上で重要な役割を果たしています。

本県においては児童生徒の自発性、自主性を活かした「めあて学習」や「選択制授業」等の体育学習の充実に努めるとともに、学校体育研修会や学校体育実技指導協力者派遣事業等により、効果的な体育学習の指導法や体育諸活動の充実と推進に努めています。

しかしながら、近年の生活の利便化や少子化の進行等により、身体活動の機会や場が減少し、児童生徒の運動体験不足や健康障害、体力の低下を招いています。

また、児童生徒の体力や運動能力は、教育活動全体を通しての体育活動等によりその向上に努めていますが、運動能力については全国平均を上回っているものの、ここ3年をみると年々下降傾向にあります。

#### 運 動 能 力 調 査 (平成9年度) 県平均値3ケ年 (平成7～9年度) の比較

種 目	校 種 学 年 年 齢	男 子 の 部			女 子 の 部		
		小 学	中 学	高 校	小 学	中 学	高 校
		6	3	3	6	3	3
50 M 走 (秒)	平 成 7 年 度	8.68	7.47	7.19	8.89	8.54	8.72
	8 年 度	8.71	7.54	7.22	8.94	8.55	8.80
	9 年 度	▼ 8.73	▼ 7.55	▼ 7.23	▼ 8.99	▼ 8.57	▼ 8.83
走 り 幅 跳 (cm)	7 年 度	322.22	418.61	444.97	293.67	322.54	312.65
	8 年 度	321.07	418.09	444.83	289.61	323.20	309.66
	9 年 度	▼ 314.53	▼ 416.98	▼ 443.93	▼ 288.80	▼ 319.18	▼ 305.91
ボ ー ル 投 げ (m)	7 年 度	31.51	25.40	27.04	18.55	15.36	15.46
	8 年 度	31.27	25.79	27.19	18.00	15.58	15.34
	9 年 度	31.51	△ 25.85	△ 27.30	18.16	15.49	▼ 15.29
懸 垂 腕 屈 伸 (回)	7 年 度	28.58	5.22	6.81	23.31	23.79	22.07
	8 年 度	27.92	5.27	6.75	22.61	24.94	23.16
	9 年 度	28.16	△ 5.34	△ 7.11	△ 23.51	△ 25.17	△ 23.28
持 久 走 (秒)	7 年 度	115.21	350.75	367.79	117.71	265.69	289.27
	8 年 度	115.25	355.21	371.55	119.61	267.81	294.27
	9 年 度	▼ 116.17	353.36	▼ 372.25	▼ 120.53	267.04	▼ 301.49
ジグザグドリブル (秒)	7 年 度	15.14			17.10		
	8 年 度	15.21			17.37		
	9 年 度	▼ 15.33			▼ 17.49		△ 平成9年度が最もよい
連続さか上がり (回)	7 年 度	3.95			3.95		
	8 年 度	3.82			3.64		
	9 年 度	3.83			3.71		▼ 平成9年度が最も悪い

今後教科体育を中心とした体育諸活動や各種体育研修会の充実と指導者の資質向上等に一層努め、児童生徒の健康の保持増進や体力の向上を図るとともに、生涯にわたり運動やスポーツに親しんでいける能力と態度を培うことが求められています。

また、運動部活動は生涯にわたってスポーツに親しむ能力や態度を育て、生徒の心身の健全な発達や仲間づくり、教師との密接なふれあい、自主的な活動ができる場として教育的に大きな意義を持っております。

しかしながら、生徒の運動部活動への欲求の多様化や生徒数の減少、専門的指導力の不足、学校週5日制の導入、地域社会におけるスポーツ活動との連携など運動部活動のあり方が課題となっているため、効果的な推進の方法や今後の望ましいあり方について検討する必要があります。

県平均値（9年度）と全国平均値（8年度）の比較

種 目	校 種 学 年 年 齢	男 子 の 部			女 子 の 部		
		小 学	中 学	高 校	小 学	中 学	高 校
		6	3	3	6	3	3
		1 1	1 4	1 7	1 1	1 4	1 7
50 M 走 (秒)	県	8.73	7.55	7.23	9.00	8.57	8.83
	全 国	8.89	7.55	7.27	9.14	8.69	8.87
	差	◎ 0.16	0	◎ 0.04	◎ 0.14	◎ 0.12	◎ 0.04
走 り 幅 跳 (cm)	県	314.32	416.98	443.93	288.80	319.18	305.91
	全 国	308.58	404.18	439.29	276.48	307.73	306.96
	差	◎ 5.74	◎ 12.80	◎ 4.64	◎ 12.32	◎ 11.45	1.05
ボ ー ル 投 げ (m)	県	31.51	25.85	27.30	18.16	15.49	15.29
	全 国	30.38	24.70	27.87	17.83	15.05	15.89
	差	◎ 1.13	◎ 1.15	0.57	◎ 0.33	◎ 0.44	0.60
懸 垂 腕 屈 伸 (回)	県	28.16	5.34	7.11	23.51	25.17	23.28
	全 国	30.18	6.09	7.58	26.35	28.65	31.09
	差	2.02	0.75	0.47	2.84	3.48	7.81
持 久 走 (秒)	県	116.20	353.36	372.25	120.53	267.08	301.49
	全 国		371.48	372.16		288.79	297.25
	差		◎ 18.12	0.09		◎ 21.71	4.24
ジグザグドリブル (秒)	県	15.33			17.49		
	全 国	16.56			18.53		
	差	◎ 1.23			◎ 1.04		
連続さか上がり (回)	県	3.83			3.71		
	全 国	4.22			4.00		
	差	0.39			0.29		

◎は福井県の方が優れている

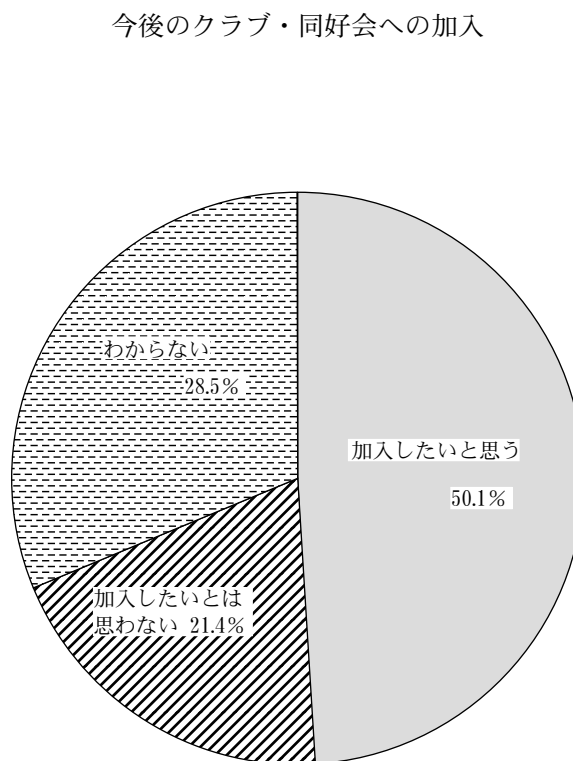
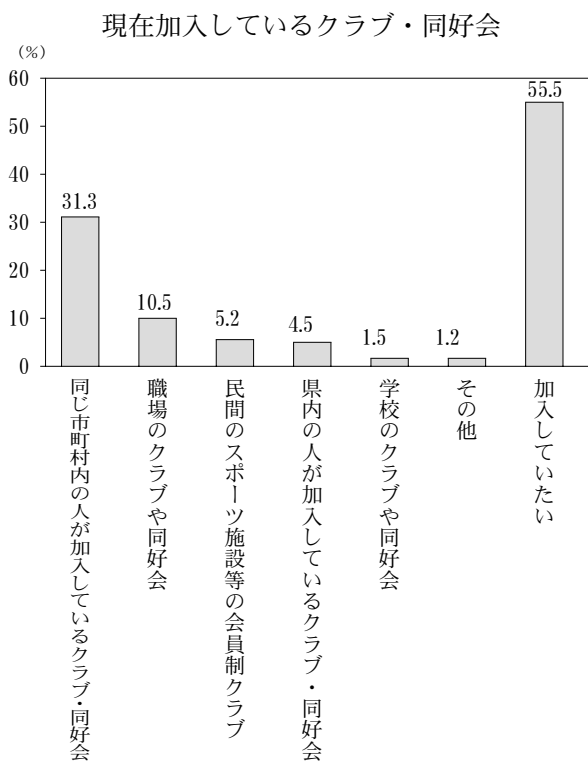
#### 4 地域におけるスポーツ

児童期、青年期前期の地域におけるスポーツ活動はスポーツ少年団や少年スポーツクラブ、民間スポーツクラブ等において行われています。平成8年度の福井県スポーツ少年団の単位団数は463団で、13,672人の団員が活動しています。

青年期後期以降は生活の場が地域や職場が中心となり、学生時代部活動などでスポーツに親しんだ者の一部が地域のスポーツクラブ等に所属して活動を継続しているものの、スポーツ環境が十分に整備されていないため、その他の多くの者はスポーツ活動から遠ざかっているという現状にあります。

また、近年の若者の傾向として、スキーやボウリング等のレジャースポーツ志向や勤務先の仲間や友人との社交的スポーツ志向がみられますが、地域のスポーツ大会への参加意欲は低下しています。

今後学校で培ったスポーツ習慣を継続し、生涯にわたりスポーツ活動に取り組めるよう、地域スポーツクラブの育成や指導者の確保などスポーツ環境を整備することが求められています。

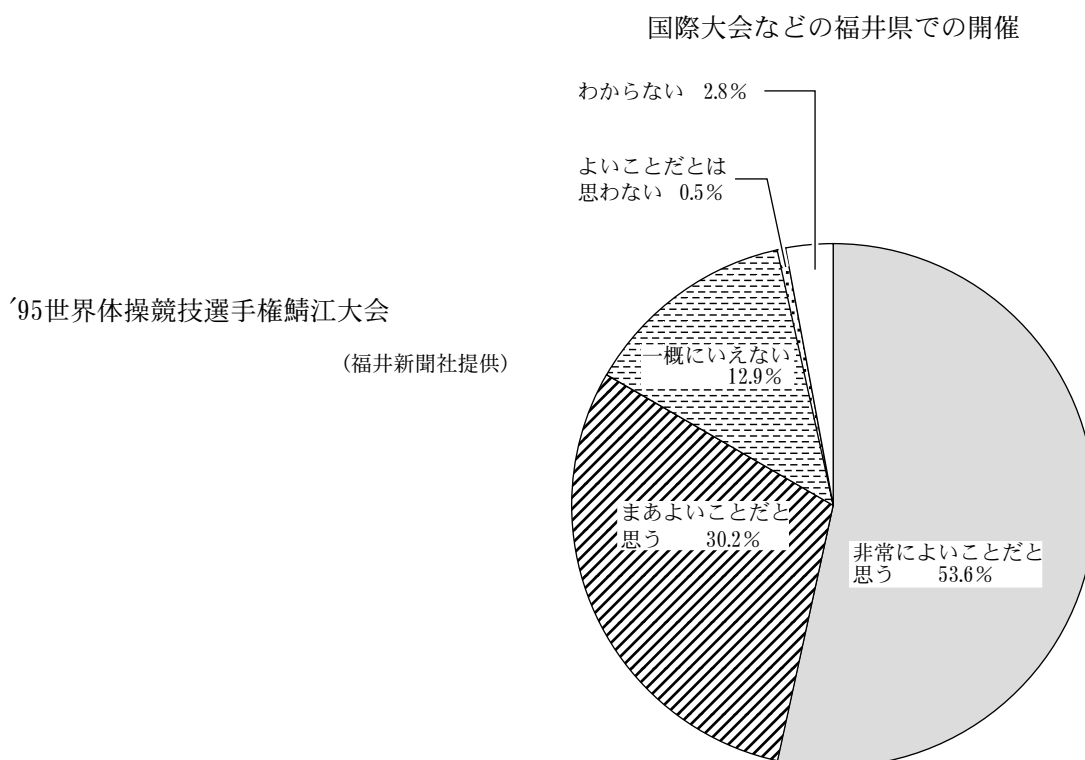


## 5 スポーツ国際交流

本県のスポーツ国際交流については、昭和49年から毎年行われているスポーツ少年団日独同時交流や世界体操競技選手権鯖江大会の開催ならびに「一市町村一か国交流」の実施をはじめ、県、市町村、競技団体、民間等において諸外国とスポーツ国際交流を行うとともに、各種国際スポーツ大会を開催しています。

しかしながら、今日地方においても人・物・情報などが国境を越えて行き交うボーダレス時代を迎え、国際交流への関心が一層高まるとともに、県政アンケートにおいても83.8%の県民が国際スポーツ大会の開催に理解を示しています。

今後諸外国との友好を一層深めるため、国際スポーツ大会の積極的な開催やスポーツ選手等の派遣・招へいが望まれています。

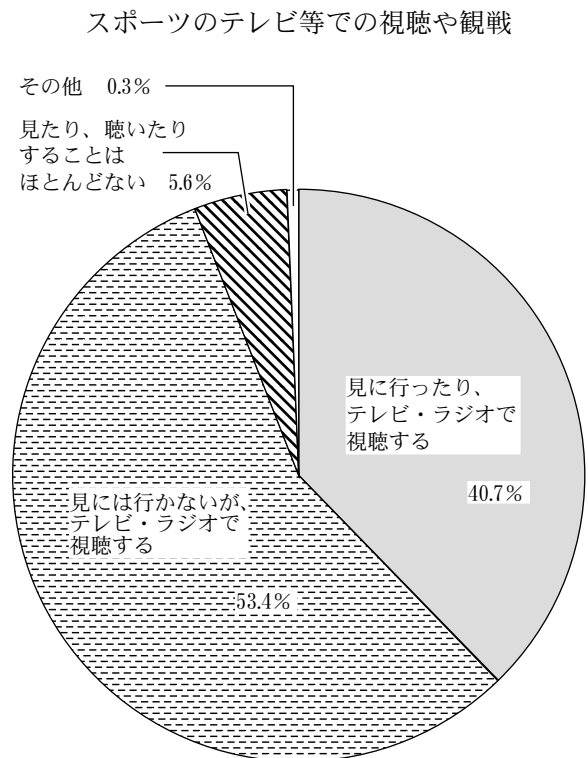
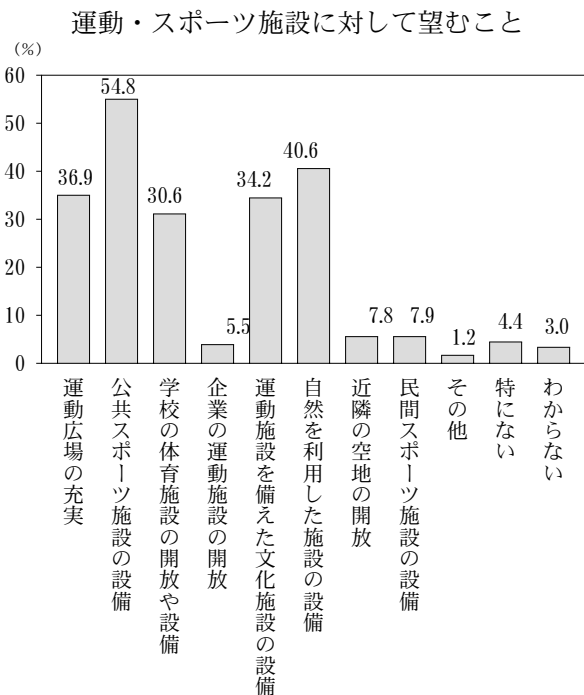


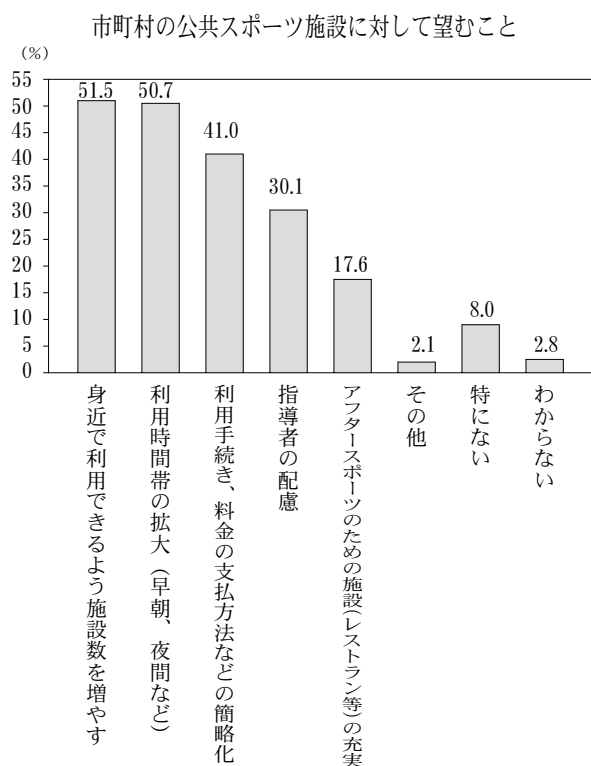
## 6 スポーツ施設

本県のスポーツ施設については昭和43年の福井国体を契機に、福井運動公園をはじめとするスポーツ施設が県内各地に整備されました。その後も競技種目ごとの施設の整備に努めるとともに、年々増大する生涯スポーツのニーズに対応して、学校体育施設の開放と地域や市町村域のスポーツ施設の整備に努めてきました。

県政アンケートでは、多くの県民が「公共スポーツ施設の整備」や「自然を利用した施設の整備」「運動広場の充実」を求めるとともに、本県選手の競技力向上のため60.6%の県民が設備の充実した練習施設の整備を求めています。

また、近年のメディアの発達やプロスポーツ化に伴い、自ら実践するだけでなく、優秀な選手やチームの出場する試合を観戦する「みるスポーツ」への関心も高まっており、そのための全国大会や国際大会などが開催可能で、水準の高い競技大会等を快適に観戦できる観覧席等を備えたスポーツ施設の整備充実も望まれています。





今後、多様化、高度化した県民のスポーツニーズに対応するため、市町村や県は身近なスポーツ施設や拠点となるスポーツ施設の整備・充実に努めるとともに、本県のスポーツ活動を一層振興するため、野外運動・スポーツ施設の整備や民間のスポーツ施設の活用、学校体育施設の共同利用を積極的に推進することが期待されています。

また、スポーツ施設の整備に当たっては、身近な生活地域、市町村域、広域的地域、県域という、各生活圏域の段階ごとに期待される施設の機能に配慮するとともに、自然との調和や高齢者および障害のある人等の利用にも十分配慮して計画的に整備することが望まれています。

福井運動公園のスポーツ施設については、老朽化や施設基準の変更等による大規模な改修が必要となってきたため、今後拠点となる本県のスポーツ施設について、中・長期的な展望に基づき順次整備していくことが求められています。



## 7 スポーツ推進体制

本県におけるスポーツ活動を推進するため、県教育庁にスポーツ課が置かれるとともに、市町村には体育担当課(係)が設置され、延べ183名の担当職員が従事しています。

また、地域や市町村におけるスポーツ活動を一層推進するため県下に706名の体育指導委員が配置されるとともに、昭和50年から延べ717名の社会教育主事(スポーツ担当)を県より派遣しています。

スポーツ団体については、現在21種目の生涯スポーツ団体が県レベルで組織されるとともに、市町村では約18,000人の県民がニュースポーツ等のクラブに所属しています。

競技スポーツでは、(財)福井県体育協会に17の地区体育協会と48の競技団体、中学校体育連盟、高等学校体育連盟が所属し、約116,000人の選手が登録されています。(以上平成8年度調べ)

また、諸スポーツ活動を支援するため、スポーツ情報の収集・提供や優秀指導者の各種表彰、スポーツ安全保険への加入、財源の確保等にも努めています。

しかしながら、県民を取り巻く社会環境と生活様式の変化により、県民は各ライフステージにおいて「するスポーツ」「みるスポーツ」など多様で高度なスポーツを求めているため、市町村の生涯スポーツ団体を統括する県域の組織の結成や県・地区体育協会と各競技団体の主体的な事業の展開、スポーツ医・科学を取り入れた科学的なトレーニング体制の整備などスポーツ推進体制の整備・充実が求められています。





# 第 2 部

## スポーツ振興施策

- 第 1 章 生涯スポーツの充実
- 第 2 章 競技スポーツの充実
- 第 3 章 学校における体育・スポーツの充実
- 第 4 章 地域におけるスポーツの振興
- 第 5 章 スポーツ国際交流の推進
- 第 6 章 スポーツ施設の整備・充実
- 第 7 章 スポーツ推進体制の整備・充実

## 第2部 スポーツ振興施策

本県スポーツ振興の目標として「豊かなスポーツライフの創造」を掲げ、県民が各ライフステージにおいて、いつでも、どこでも、だれでも、スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現を目指します。

このため、生涯にわたるスポーツの推進を基調とするとともに、県民への多様なスポーツ機会の提供を目指す「生涯スポーツの充実」、本県選手の活躍を目指す「競技スポーツの充実」、運動習慣や健康的な生活習慣の形成を目指す「学校における体育・スポーツの充実」、地域に根ざしたスポーツの活性化を目指す「地域におけるスポーツの振興」、国際理解・協力を目指す「スポーツ国際交流の推進」を基本的施策とし、これらを支援する「スポーツ施設の整備・充実」、「スポーツ推進体制の整備・充実」の7項目からなるスポーツ振興施策を推進します。

目 標

豊かなスポーツライフの創造

基本理念

生涯スポーツ社会

いつでも、どこでも、だれでも、スポーツに親しめる

振興施策

生涯にわたるスポーツの推進

生涯スポーツの充実

競技スポーツの充実

学校における体育・スポーツの充実

地域におけるスポーツの振興

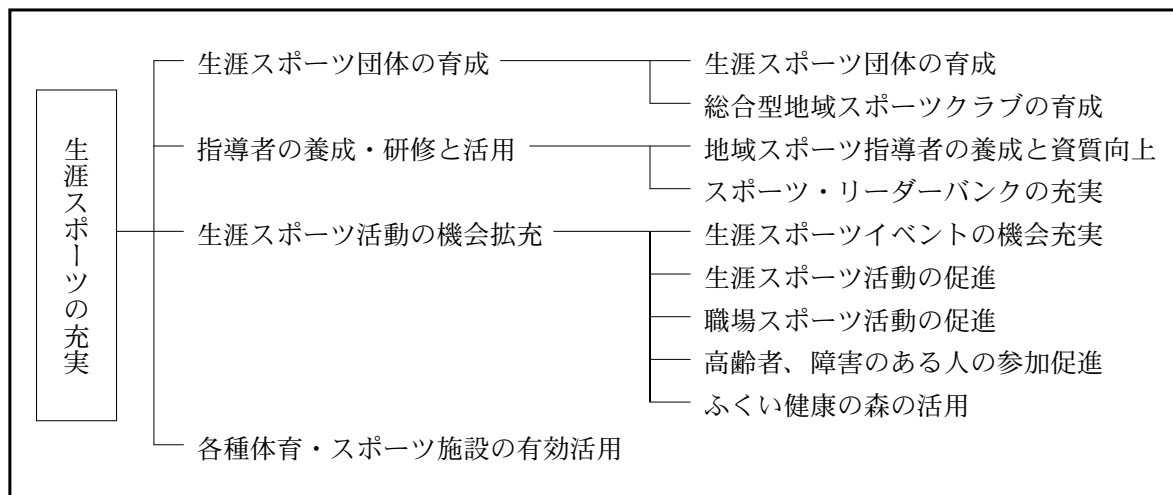
スポーツ国際交流の推進

スポーツ施設の整備・充実

スポーツ推進体制の整備・充実

第 1 章 生涯スポーツの充実

県民への多様なスポーツ機会の提供を目指す！



1 生涯スポーツ団体の育成

(1)生涯スポーツ団体の育成

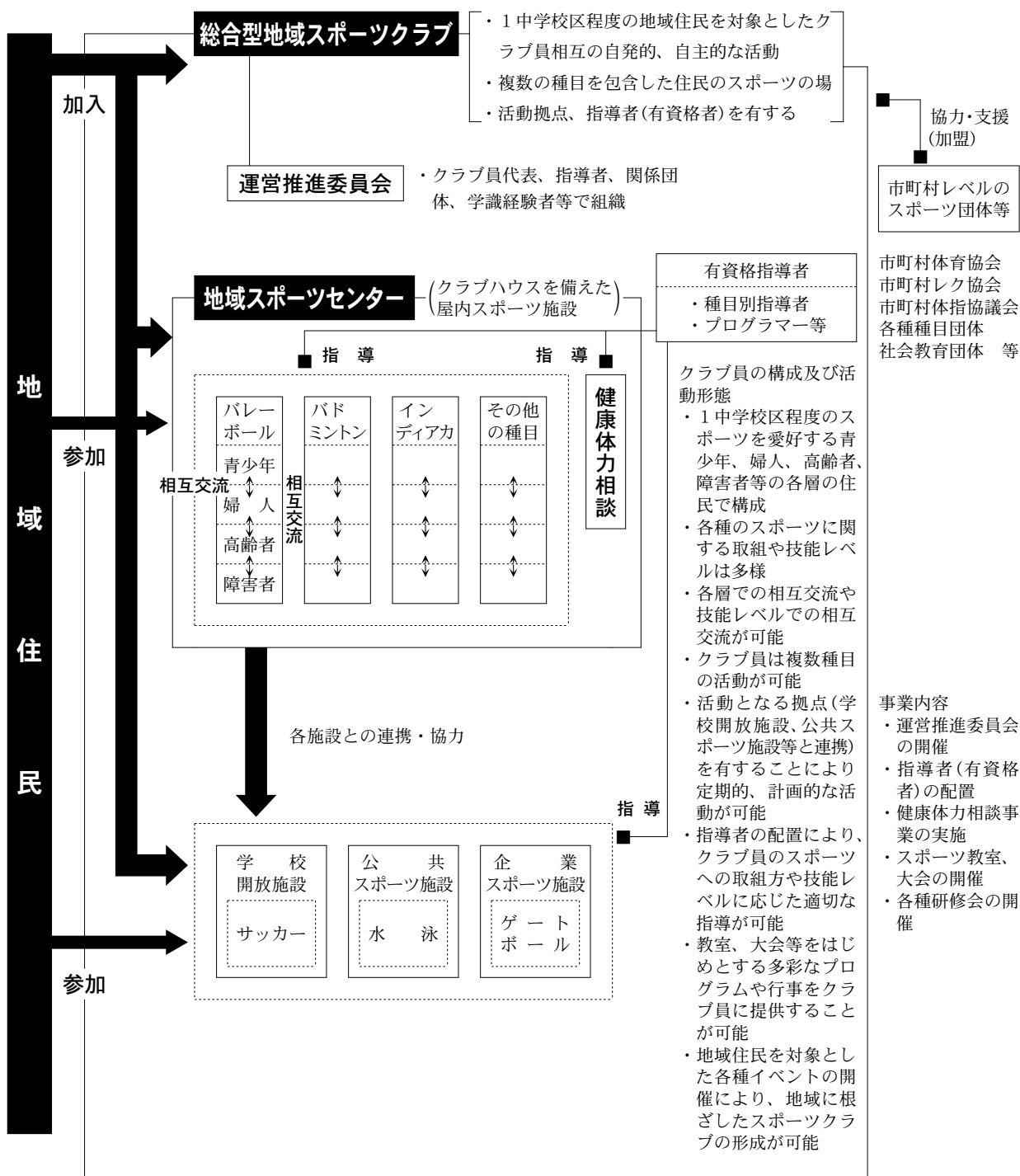
市町村での生涯スポーツ活動を一層推進するため、子どもから高齢者や障害のある人まで、地域でスポーツに取り組むニュースポーツを中心とした愛好者の組織化を図り、生涯スポーツ団体として育成します。

(2)総合型地域スポーツクラブの育成

スポーツに関する総合的な企画や運営を行う地域主導型の推進体制を整え、スポーツに興味や関心のある地域住民が継続的にスポーツ活動ができるようにするため、複数の種目からなる総合型地域スポーツクラブを育成します。

また、クラブの運営にあたってはスポーツ少年団活動や運動部活動との連携・協力も図ります。

## 総合型地域スポーツクラブモデル図



## 2 指導者の養成・研修と活用

### (1)地域スポーツ指導者の養成と資質向上

生涯スポーツ人口の増加やスポーツニーズの多様化に対応するため、国の指導者養成事業や関係機関・団体と連携を図りながら、新たな社会的ニーズに対応できる人間性豊かな指導者の養成と資質向上に努めます。

また、指導者養成の体制が確立していないニュースポーツ等については独自にその体制を整備し、指導者の養成に努めます。

- ア 指導者養成講習会の開催
- イ 指導者研修会の開催
- ウ 高齢指導者の養成と活用
- エ 野外活動指導者養成講習会の開催

### (2)スポーツ・リーダーバンクの充実

県民の多様なスポーツニーズに対応するため、指導者の計画的・体系的な養成・確保に努めるとともに、指導体制・派遣体制を構築し、各種の資格を有する指導者のスポーツ・リーダーバンクへの登録システムと情報提供システムの整備を図るなど、その有効活用を一層推進します。

## 3 生涯スポーツ活動の機会拡充

### (1)生涯スポーツイベントの機会充実

生涯スポーツ振興の重要性とその意義について県民のより一層の理解を深め、スポーツ愛好者を増やすため、平成16年に全国スポーツ・レクリエーション祭を本県で開催するとともに、全国的規模の生涯スポーツイベントへの派遣に努めます。

また、恵まれた本県の自然環境を活かしたアウトドアスポーツを推進するとともに、スポーツ・レクリエーション祭なども積極的に開催します。

- ア 全国スポーツ・レクリエーション祭の開催
- イ 全国スポーツ・レクリエーション祭への派遣
- ウ 県内生涯スポーツイベントの開催
  - ・スポーツ・レクリエーション祭 等

**平成16年（第17回）**

**全 国 ス ポ レ ク 祭 の 開 催**

スポレクおきなわ'97（開会式）

## (2)生涯スポーツ活動の促進

地域住民に豊かにスポーツを提供するため、生涯スポーツの拠点となる市町村では、地域の実情や各ライフステージの特性を踏まえたスポーツ環境づくりの施策をつくり、年間を通して多様なスポーツ活動を計画的に推進し、スポーツ活動の機会をさらに充実することとします。

- ア 生涯スポーツ推進事業
  - ・スポーツ相談の開催
  - ・スポーツ教室の開催
  - ・スポーツクラブの育成
  - ・スポーツ大会の開催 等
- イ スポーツタウン推進事業
- ウ スポーツライフ推進事業

## (3)職場スポーツ活動の促進

民間企業においては従業員相互の交流が図れるスポーツクラブづくりや年間を通して各種スポーツに親しめる機会を充実することが期待されます。

また、職場におけるスポーツリーダーが地域や市町村において、スポーツ指導者として活躍することが期待されます。

## (4)高齢者、障害のある人の参加促進

高齢者や障害のある人のスポーツ大会等への参加を促進するため、主催者は種目の設定、開催方法、競技方法等について工夫、配慮し、参加者全員が共に楽しむことができるよう努めます。

## (5)ふくい健康の森の活用

スポーツを通じた健康づくり、生きがいづくりのため、「ふくい健康の森」の有効活用を図るとともに、生涯スポーツ実践の場として積極的に活用します。

- ア ふくい健康の森施設の利用促進
- イ 基本健康診査  
(健康度測定、体力度測定)
- ウ 健康増進プログラム  
(運動処方箋) の作成

ふくい健康の森

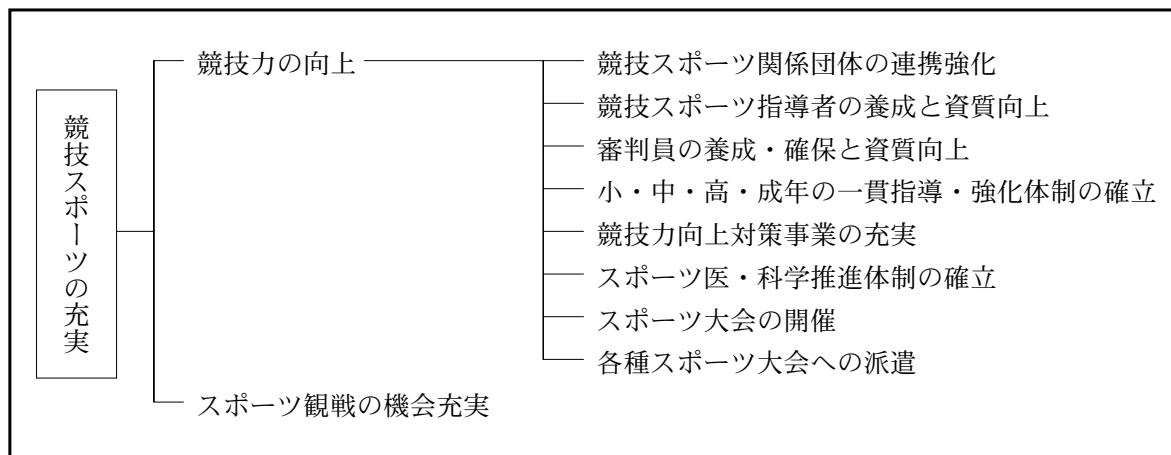
#### 4 各種体育・スポーツ施設の有効活用

地域における各種スポーツ事業の推進や住民の自発的なスポーツ活動を促進するため、学校体育施設や企業が福利厚生施設として所有するスポーツ施設など地域にあるスポーツ施設を広く開放し、活動の場を十分確保します。

また、これら施設の連携・協力による効率的な活用を図るとともに、利用時間の拡大や利用手続の簡略化など地域住民のニーズにも十分配慮します。

## 第2章 競技スポーツの充実

# 本県選手の活躍を目指す！



### 1 競技力の向上

#### (1) 競技スポーツ関係団体の連携強化

競技力向上を効率的に推進するため、行政と（財）福井県体育協会ならびに各競技団体、学校体育団体の連携をさらに深めるとともに、それぞれの組織を一層充実します。

#### (2) 競技スポーツ指導者の養成と資質向上

年々専門化・高度化する競技スポーツに対応するため、競技団体、学校、企業等と連携を図りながら、幅広く競技スポーツ指導者の養成と資質向上に努めます。

- ア 指導者養成事業
- イ 指導者資質向上事業
- ウ 優秀指導者派遣・招へい事業

#### (3) 審判員の養成・確保と資質向上

年々増加する大会と競技水準の向上に資するため、競技団体と連携を図りながら、審判員の養成・確保と資質の向上に努めます。

#### (4)小・中・高・成年の一貫指導・強化体制の確立

本県の競技水準を高めるため、小・中・高等学校体育指導者と競技団体指導者等が一体となって、選手の人格形成を含めたジュニアから成年までの一貫指導・強化体制の早期確立を目指します。

また、ジュニア期からの一貫指導・選手育成体制の構築を目指して、地域特性を活かした競技を地域ごとに指定するなど、拠点化を図ります。

#### (5)競技力向上対策事業の充実

国民体育大会をはじめとした全国大会や国際大会等で本県選手が優秀な成績をおさめられるよう、競技スポーツ関係団体との連携のもとにより具体的な計画を策定し、それに基づいた競技力向上対策事業を積極的に実施します。

- ア 競技者の養成と強化
- イ 指導者の養成と活用
- ウ スポーツ団体との連携の強化

**(6)スポーツ医・科学推進体制の確立**

今日のより専門化・高度化した競技スポーツにおいて、効果的に、かつ傷害の発生を防ぎながら競技力を向上していくためには、指導者・選手とスポーツ医・科学専門家の連携のもとに、科学的・合理的なトレーニング等を実施することが不可欠です。

そのため、研修会やスポーツドッグなど、指導者・選手への積極的なスポーツ医・科学サポート関連事業を展開します。

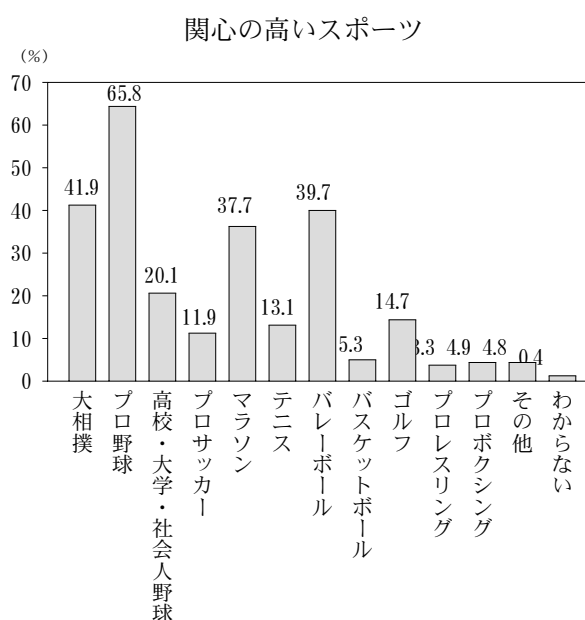
**(7)スポーツ大会の開催**

県民に広くスポーツに参加する機会を提供するとともに、競技水準の向上を図るため、競技スポーツの祭典として県民体育大会を一層充実します。

また、2巡目国民体育大会の開催については、スポーツ振興や競技力向上、県民の士気の高揚等幅広い効果が期待されるため招致について検討します。

## (8)各種スポーツ大会への派遣

本県の競技力向上と県民のスポーツへの関心を高めるため、地区大会、全国大会、国際大会などに本県を代表する選手を積極的に派遣します。



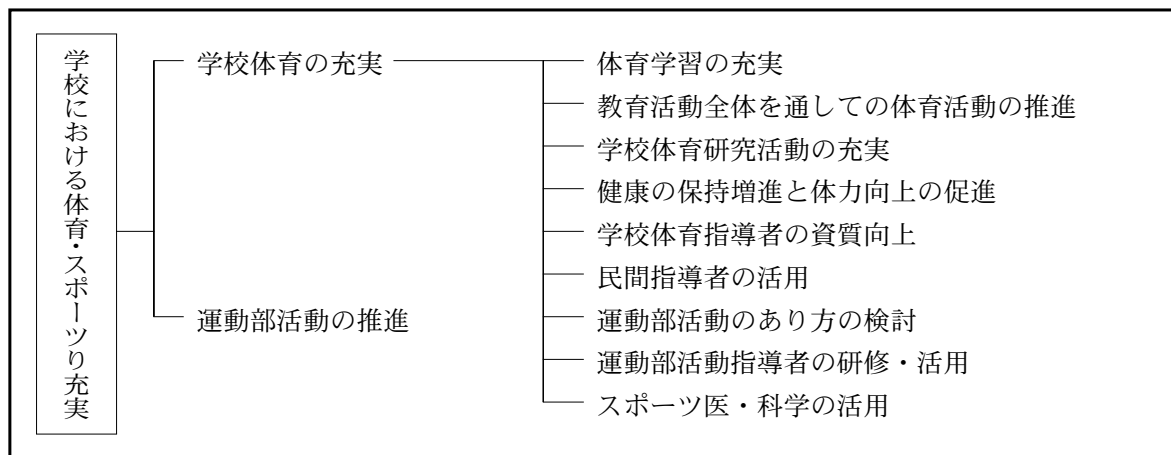
## 2 スポーツ観戦の機会充実

スポーツ観戦機会を県民に豊かに提供することは、スポーツ文化に直接触れる機会となり、県民の生活に潤いを与えるとともに、スポーツに対する関心や意識の高揚、本県のイメージアップにもつながります。

このため競技団体と連携しながら「みるスポーツ」としての全国的・国際的スポーツイベントの招致を進めます。

### 第3章 学校における体育・スポーツの充実

**運動習慣や健康的な生活習慣の形成を目指す！**



#### 1 学校体育の充実

##### (1) 体育学習の充実

生涯にわたり運動やスポーツに親しめる基礎を培うため、児童生徒の多様な運動欲求や一人一人の適性に応じて主体的に楽しく運動に取り組む体育学習を一層充実します。

また、児童生徒の運動意欲を喚起するための評価と地域や学校の特性を活かした体育学習、地域社会との連携についてもさらに工夫・研究します。

- ア 指導計画、体育指導の工夫・改善
- イ 評価の工夫・改善
- ウ 学習環境の整備

## (2)教育活動全体を通しての体育活動の推進

楽しく活力ある学校を目指し、豊かでたくましい心と体を育てるため、教育活動全体を通しての体育活動について実施方法や各教科等との関連を図った指導などについて工夫・研究し、今後とも効果的に推進します。

- ア 効果的な体育的行事の推進
- イ 自然体験、野外活動の推進
- ウ 地域社会における体育・スポーツ活動との連携促進

## (3)学校体育研究活動の充実

学校体育の研究は、各学校や各地区研究会、全県レベルの研究会、学校体育研究会、研究指定校において実施されています。

今後、効果的な体育指導を推進するため、各種研究会を一層連携充実するとともに、優れた研究の県内全域への普及と質的向上に努めます。

#### (4)健康の保持増進と体力向上の促進

児童生徒の健康の保持増進と体力の向上を図るため、健康、体力・運動能力について児童生徒の理解を促進し、その育成に一層努めます。

- ア 体力・運動能力向上の推進
- イ 健康、体力関係データの集約と分析、研究、活用
- ウ 健康、体力づくり環境の創意・工夫と整備
- エ 健康・体力づくり推進事業

#### (5)学校体育指導者の資質向上

学校体育指導者の資質向上を図るため、各種研修会や講習会の充実と積極的な開催、および体育指導手引き書の発刊等に努めます。

- ア 校内研修会（体育指導）の充実
- イ 体育主任研修会および体育実技指導者講習会の充実
- ウ 「体育学習・保健学習指導資料（手引き）」の作成
- エ 体育指導主事の活用

## (6)民間指導者の活用

多様化している児童生徒の活動欲求を満たし、意欲的な体育・スポーツ活動を推進するため、体育学習において専門的指導力を持つ特色ある民間指導者をさらに活用します。

## 2 運動部活動の推進

### (1)運動部活動のあり方の検討

近年、生徒数の減少や運動部活動への欲求の多様化など、運動部活動のあり方が問われているため、これらに対応した志向別のグループ分けや複数校での活動、外部指導者の活用などにより運動部活動を効果的に推進します。

また、今後、運動部活動のあり方についての全国的な動向や地域のスポーツ環境の整備状況を踏まえ、生徒が継続的にスポーツに親しめる良好なスポーツ環境づくりについてさらに検討します。

### (2)運動部活動指導者の研修・活用

運動部活動指導者の指導力の向上を図るため、県中学校体育連盟や県高等学校体育連盟と連携を図りながら、資質向上のための各種研修会を積極的に開催します。

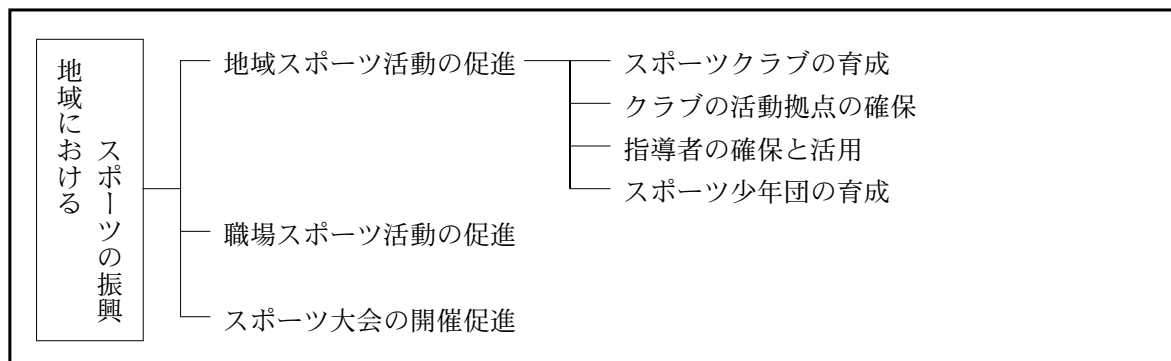
また、生徒の運動部活動に対する欲求の高度化、多様化に対応するため、地域の専門的指導力のある外部指導者を積極的に活用し、効果的な指導を行います。

### (3)スポーツ医・科学の活用

運動部活動を安全かつ効果的に推進するため、今後スポーツ医・科学を用いた指導法を導入するとともに、運動部活動指導者および外部指導者等の研修も積極的に開催します。

## 第4章 地域におけるスポーツの充実

### 地域に根ざしたスポーツの活性化を目指す！



#### 1 地域スポーツ活動の促進

##### (1) スポーツクラブの育成

競技スポーツに関心のある地域住民が、継続的にスポーツ活動に取り組めるようにするため、地域におけるスポーツクラブを育成します。

また、総合型地域スポーツクラブの育成についても積極的に取り組みます。

##### (2) クラブの活動拠点の確保

スポーツクラブの活動場所やクラブハウスを確保するため、市町村体育施設や学校体育施設等を積極的に開放します。

また、これら施設の地域住民を含めた管理運営についてその方途を検討します。

##### (3) 指導者の確保と活用

スポーツクラブの育成と活動を促進するため、各種スポーツ指導者の確保と派遣体制を整えます。

#### (4)スポーツ少年団の育成

21世紀を生きる青少年の健全な心身とたくましく「生きる力」を育成するため、スポーツ少年団活動を一層促進します。

- ア 交流活動の促進
- イ ジュニアリーダーの育成
- ウ スポーツ少年団指導者（認定員）の養成と資質向上

## 2 職場スポーツ活動の促進

民間企業においては交流と親睦が図れるスポーツクラブとともに、技術や技を競う競技スポーツクラブ活動にも理解を示し、競技スポーツの振興と本県の競技力の向上に貢献することが期待されます。

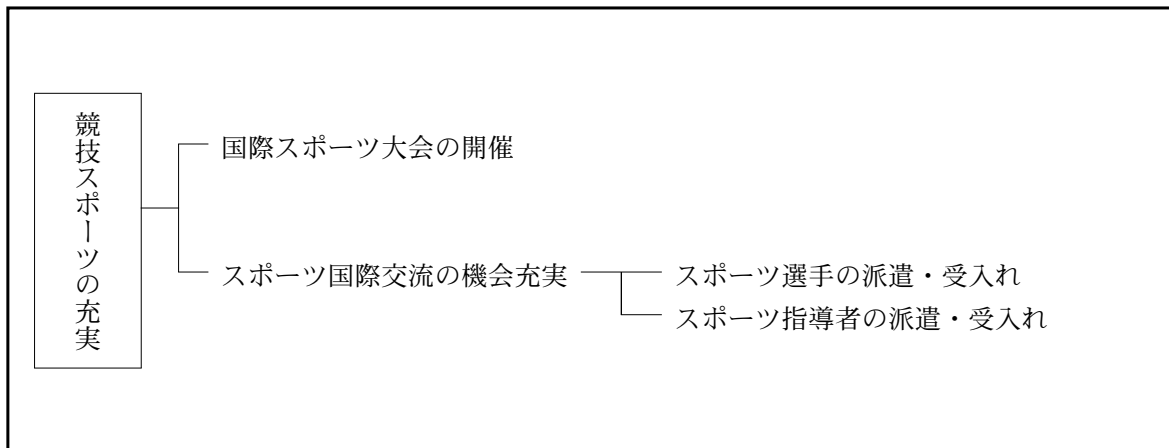
また、職場におけるスポーツリーダーが地域のスポーツクラブ等において、指導者として活躍することが期待されます。

## 3 スポーツ大会の開催促進

地域に根ざしたスポーツクラブ活動を促進し、スポーツ人口の拡大を図るため、競技種目ごとのスポーツ大会や県民体育大会の開催など、広く県民が各種スポーツ大会に参加する機会を提供します。

## 第5章 スポーツ国際交流の推進

### 国際理解・国際協力の推進を目指す！



#### 1 国際スポーツ大会の開催

国際スポーツ大会を県内で開催することは、世界のすぐれた競技者のプレーに直接触れる機会となり、県民に夢と感動を与えるとともに県民の国際交流の機会を増やし、競技力の向上にもつながります。

今後、スポーツにおける国際化を一層推進するため、各種国際スポーツ大会の開催を検討します。

#### 2 スポーツ国際交流の機会充実

##### (1) スポーツ選手の派遣・受入れ

国際友好を深めるとともに本県競技力の向上を図るため、諸外国とスポーツの各分野において交流を積極的に推進します。

また、日本を代表する本県スポーツ選手の国際スポーツ大会への参加や各種団体等のスポーツ交流について支援します。

バレーボール'95 ワールドカップ女子福井大会  
(福井新聞社 提供)

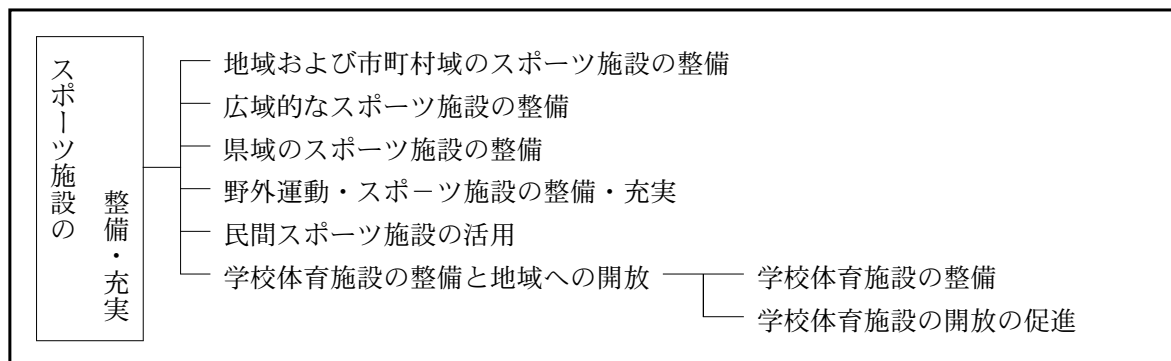
## (2)スポーツ指導者の派遣・受入れ

世界各国の優れたスポーツ指導法を学び、指導者の資質向上を図るため、現在、外国の指導者を招へいしていますが、今後、本県からの指導者の派遣について検討します。

また、交流相手国における競技の普及や競技力の向上に協力するため、指導者の交流も推進します。

## 第6章 スポーツ施設の整備・充実

### 多様なスポーツ活動の場の整備を目指す！



#### 1 地域および市町村域のスポーツ施設の整備

地域住民の日常的なスポーツ活動のための身近な施設と、市町村全域にわたる各種スポーツ競技会やスポーツ行事のために利用される施設は市町村が主体となって一層整備・充実することとします。

また、施設の整備にあたっては自然との調和や、幼児から高齢者、障害のある人の利用にも十分配慮するとともに、クラブハウスや健康チェック、スポーツ相談などの多目的な機能や親子がふれあうことのできる幼児体育室等の整備についても配慮します。

#### 2 広域的なスポーツ施設の整備

生活圏の広域化に伴い、スポーツ施設の広域的な利用についての要望が高まっています。広域的なスポーツ施設としてはこれまで、トリムパークかなづ、奥越ふれあい公園等を整備してきました。

今後とも、市町村ごとに設置することが困難であったり、その機能が複数の市町村にわたる場合などにあっては、複数の市町村、または県と市町村の連携による広域的なスポーツ施設の整備について検討します。

また、既存の市町村の施設についても市町村の区域を越えた広域的な利用ができる方途を検討します。

### 3 県域のスポーツ施設の整備

国内的・全県的なスポーツ競技会の開催が可能で「みるスポーツ」にも対応でき、競技選手の養成およびスポーツに関する研究、情報の収集と提供、指導者養成事業等に利用される県全域にわたる事業を実施するための施設の整備については、今後2巡目の福井国体の開催等を視野に入れ、市町村等のスポーツ施設の有効活用を図りながら中・長期的な展望に基づいて、福井運動公園の再整備を含めた、県立のスポーツ施設のあり方を検討し、必要に応じて整備を図っていきます。

馬術競技場

クレール射撃場

#### 4 野外運動・スポーツ施設の整備・充実

自然との豊かなふれあいを楽しむ野外での運動やスポーツがますます盛んになると予想されるため、今後、山や海、河川等の豊かな自然環境と冬季には積雪があるという本県の特性を活かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、キャンプ場等の野外運動・スポーツ施設の整備・充実について検討します。

#### 5 民間スポーツ施設の活用

民間スポーツ施設は地域のスポーツ振興を図るうえで大きな役割を果たしています。

今後スポーツニーズが一層高まると予想されるため、これらの施設については、地域のスポーツクラブや地域住民の身近なスポーツ施設として、一層利用促進を図ることとします。

#### 6 学校体育施設の整備と地域への開放

##### (1)学校体育施設の整備

今日の学校体育においては、児童生徒が主体的に運動に親しみ、体力づくりに取り組める多様な学習活動の展開が求められています。

今後、これらの学習活動に対応できる十分な広さを持ち、機能的で安全な体育・スポーツ施設や設備の充実を検討します。

##### (2)学校体育施設の開放の促進

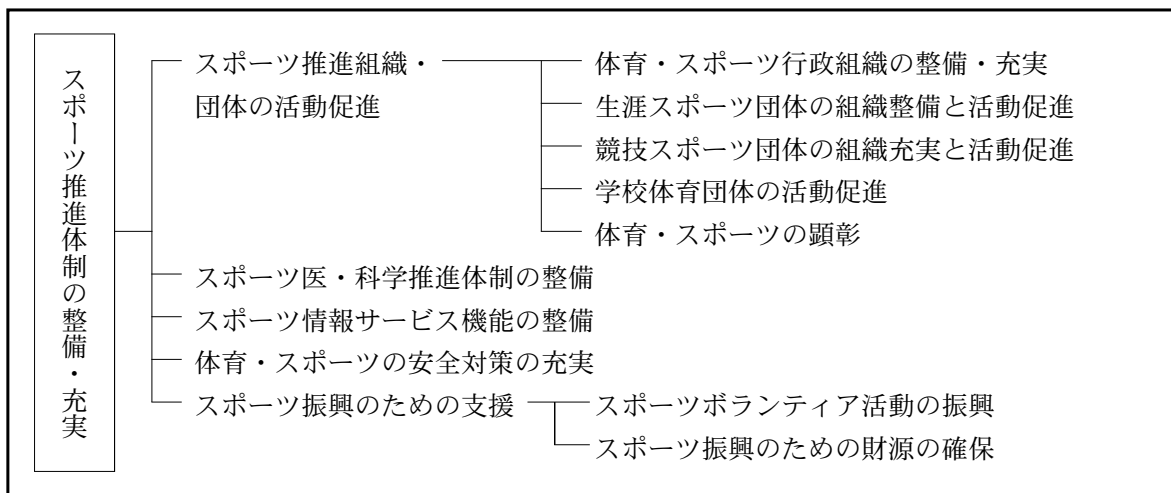
学校体育施設は、地域住民にとって最も身近なスポーツ施設であることから、学校教育に支障のない限り広く地域住民に開放します。

このため、今後地域社会との共同利用施設という考えのもと、地域住民のニーズに対応した利用と施設の開放を図るとともに、小・中学校と同様に高等学校についても積極的に開放します。

また、施設開放のための施設整備や管理運営体制のあり方についても検討します。

第7章 スポーツ推進体制の整備・充実

豊かなスポーツ活動の支援を目指す！



1 スポーツ推進組織・団体の活動促進

(1) 体育・スポーツ行政組織の整備・充実

県民の多様なスポーツニーズに対応し、スポーツ活動の振興を図るため、体育・スポーツ行政部門の組織を整備充実します。

- ア 市町村教育委員会の体育・スポーツ組織の体質強化
- イ 市町村におけるスポーツ振興計画づくりの推進
- ウ スポーツ施設への指導者の配置
- エ 体育指導委員の配置促進と活用
- オ 社会教育主事（スポーツ担当）の活用

(2) 生涯スポーツ団体の組織整備と活動促進

県下全域における生涯スポーツを一層振興するため、ニュースポーツ団体の組織化に努め、活動の促進を図ります。

### (3)競技スポーツ団体の組織充実と活動促進

年々専門化・高度化していく競技スポーツに対応するため、各競技別スポーツ団体や学校体育団体（中体連・高体連）においては適切に事業を展開することとします。

また、これらを統括する（財）福井県体育協会についても、団体間の相互協力の促進と多様化しているニーズに対応できる業務体制を整備充実するとともに、積極的に事業を展開することとします。

### (4)学校体育団体の活動促進

学校体育団体は、体育大会・競技会等の開催運営や派遣、体育研究会、体育に関する講習会等の事業を実施しています。

今後、さらに学校体育団体の活動の充実を図るためには、学校週5日制や児童生徒のスポーツニーズに対応しながら組織を活性化し、研究・研修の機能を一層充実します。

### (5)体育・スポーツの顕彰

県民のスポーツに対する関心や意欲を喚起し、本県における体育・スポーツ活動の一層の振興を図るために、体育・スポーツ分野において顕著な成果や功績を上げたものを顕彰することは重要です。

今後、既存の表彰制度を充実するとともに、競技者として功績のあった者やスポーツの普及振興に功績のあった企業、団体等の表彰制度の新設について検討します。

## 2 スポーツ医・科学推進体制の整備

専門化・高度化している競技スポーツにおいて、選手の健康管理を行い、効果的に競技力の向上を図るため、検診、各種測定、宿泊・研修、トレーニング、ライブラリー等の機能の整備をはじめとするスポーツ医・科学推進体制を整えます。

## 3 スポーツ情報サービス機能の整備

県民の求めるスポーツ情報を豊かに提供するため、公共スポーツ機関、学校体育関係、(助)福井県体育協会、民間スポーツ団体等のスポーツ情報についてネットワーク化に努め、効率的な情報サービス機能を整備します。

## 4 体育・スポーツの安全対策の充実

スポーツ大会やスポーツ教室の開催等での事故発生を防止するため、体育・スポーツ活動を実施する場合は、活動内容等を十分把握し、競技者の能力や健康状態に留意するとともに施設・設備の安全対策を十分に図ります。

また、事故発生時の応急処置等の体制を整えるとともに、保険への加入を促進し、安心してスポーツ活動に専念できる条件整備を推進します。

## 5 スポーツ振興のための支援

### (1)スポーツボランティア活動の振興

近年のスポーツ大会・イベントの開催や日常でのスポーツ指導などには人的・物的な協力が不可欠となっているため、県民や企業等がスポーツボランティア活動への理解を深めるとともに、スポーツ団体等はその受け皿づくりと活動機会の提供に努めます。

また、スポーツ選手のボランティア活動についても、スポーツ界側として積極的に取り組むことを推進します。

### (2)スポーツ振興のための財源の確保

県民の多様なスポーツニーズに対応し、スポーツの諸活動を推進するためには財源の確保が不可欠です。このため、これまでの行政からの支援に加え、民間企業等からの資金も活用しながら各種事業への支援を促進します。

また、競技団体等においても自主財源の確保を推進します。





# 第 3 部

年 次 計 画

## 1 生涯スポーツの充実

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
1	生涯スポーツ団体の育成			26
	○生涯スポーツ団体の育成	○→ 市町村生涯スポーツ団体設立と活動促進	市町村・団体	26
	○総合型地域スポーツクラブの育成	○→ 総合型地域スポーツクラブ設立と活動促進	県・市町村・ 団体	26
2	指導者の養成・研修と活用			28
	○地域スポーツ指導者の養成と資 質向上	→ 地域スポーツ指導者講習会・研修会の開催	県・市町村・ 団体	28
	○スポーツ・リーダーバンクの充 実 《スポーツ指導者養成活用事業》	○→ 指導・派遣体制の構築と登録・情報提供システムの整備	県・市町村・ 団体	28
3	生涯スポーツ活動の機会拡充			28
	○生涯スポーツイベントの機会充 実 《全国スポーツ・レクリエーショ ン祭への派遣》	→ スポーツイベントの開催と参加促進	県・市町村・ 団体	28
	《第17回全国スポーツ・レクリエー ション祭の開催》	○→ 開催準備室の開設、スポレク祭の開催	県・市町村・ 団体	
	《県内生涯スポーツイベントの開 催》	→ 多様なスポーツイベントの開催と参加促進	県・市町村・ 団体	
	○生涯スポーツ活動の促進	→ 多様なスポーツ活動の提供	県・市町村・ 団体	30
	《生涯スポーツ推進事業》	→ スポーツ相談・教室・大会等の開催促進	市町村・団体	
	《スポーツタウン推進事業》	→ スポーツを通じた町づくりの推進	県・市町村	
	《スポーツライフ推進事業》	○→ スポーツ活動促進のための環境の整備推進	県・市町村	
	○職場スポーツ活動の促進	→ 多様なスポーツ機会の提供と活動促進	企業	30
	○高齢者、障害のある人の参加促 進	→ スポーツ大会の開催方法等の工夫と参加促進	県・市町村・ 団体	30
	○ふくい健康の森の活用	→ 各種検査の活用と施設の利用促進	県	30
4	各種体育・スポーツ施設の有効活 用	→ 各種施設の開放と利用促進	県・市町村・ 企業	31

## 2 競技スポーツの充実

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
	競技力の向上			32
	○競技スポーツ関係団体の連携強化	→ 競技力の向上をめざしたスポーツ団体の連携強化の促進	県体育協会・ 団体	32
	○競技スポーツ指導者の養成と資 質向上	→ 有資格競技スポーツ指導者の養成・確保	県・県体育協 会・団体	32
	○審判員の養成・確保と資質向上	→ 有資格審判員の養成・確保	県・県体育協 会・団体	32
	○小・中・高・成年の一貫指導・ 強化体制の確立 《競技力向上強化拠点整備事業》	○→ 競技水準を高める一貫指導・強化体制の確立 → 地域の特性を活かした強化拠点化の推進	県・県体育協 会・団体	33
1	○競技力向上対策事業の充実 《競技力向上事業》	→ 第2次5ヶ年計画に基づく競技力の向上	県・県体育協 会・団体	33
	○スポーツ医・科学推進体制の確 立 《スポーツ医・科学推進事業》	○→ 科学的・合理的なトレーニング体制の確立と推進	県・県体育協 会・	34
	○スポーツ大会の開催	→ 競技スポーツ大会の開催促進	県・県体育協 会・団体	34
	○各種スポーツ大会への派遣	→ 各種スポーツ大会への本県代表選手の積極的な派遣	県・県体育協 会・団体	35
	スポーツ観戦の機会充実			35
	《全国的・国際的スポーツイベ ント開催事業》	→ 県民のスポーツへの意識と関心を高める大会の開催	県・県体育協 会・団体	
	《プロスポーツの招致開催》	→ 文化としての「みるスポーツ」の豊かな提供	県・県体育協 会・団体	
	《'98体操競技ワールドカップ決 勝鯖江大会開催》	→ 体操競技ワールドカップ決勝鯖江大会の開催	組織委員会	
2	《2巡目国民体育大会の招致検討》	○→ 国民体育大会の開催検討	県・県体育協 会・団体	

### 3 学校における体育・スポーツの充実

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ	
1	学校体育の充実			36	
	○体育学習の充実	—————→ 児童生徒の欲求や適性に応じた体育学習の推進	県・市町村・ 学校	36	
	○教育活動全体を通しての体育活動の推進	—————→ 豊かでたくましい心と体を育てるための体育活動の推進	県・市町村・ 学校	37	
	《特色ある学校体育・スポーツ推進事業》	————→ 児童生徒と地域の特色に応じた体育・スポーツの推進	県・市町村・ 学校		
	○学校体育研究活動の充実	—————→ 効果的な体育指導をめざした学校体育研究活動の推進	県・市町村・ 学校	37	
	○健康の保持増進と体力向上の促進	—————→ 児童生徒の健康と体力の確保	県・市町村・ 学校	38	
	《健康・体力づくり推進事業》	○————→ 生涯にわたる健康や体力づくりのための資質の育成	県・市町村・ 学校		
	《健康教育の推進事業》	—————→ 児童生徒の健康の保持増進	県・市町村・ 学校		
	《安全教育の推進事業》	—————→ 児童生徒の安全の確保	県・市町村・ 学校		
	《心の健康教育推進事業》	○————→ 実践的なヘルスカウンセリング講習会の開催	県・学校保健 会		
	○学校体育指導者の資質向上	—————→ 各種研修会・講習会の開催	県・市町村・ 学校	38	
《体育学習・保健学習指導資料(手引き)作成》	○————→ 指導資料(手引き)の作成	県			
○民間指導者の活用	—————→ 体育学習における民間スポーツ指導者の活用促進	県・市町村・ 学校	39		
2	運動部活動の推進			39	
	《全国中学校体育大会の開催》	○————→ 準備・開催	○————→ 準備・開催	県・市町村・ 中体連	
	○運動部活動のあり方の検討			県・中体連・ 高体連	39
	《運動部活動運営検討委員会の開催》	○————→ 検討委員会の開催		県・中体連・ 高体連	
	○運動部活動指導者の研修・活用	—————→ 指導者の資質向上と地域スポーツ指導者の活用促進		県・中体連・ 高体連	39
○スポーツ医・科学の活用	—————→ 科学的・合理的なトレーニングの導入		県・中体連・ 高体連	39	

## 4 地域におけるスポーツの振興

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
	地域スポーツ活動の促進			40
1	○スポーツクラブの育成	→ 継続したスポーツ活動をめざすスポーツクラブの育成	市町村・団体	40
	○クラブの活動拠点の確保	→ 活動場所やクラブハウスのための体育施設の開放促進	市町村・団体	40
	《総合型地域スポーツクラブの育成事業》	○→ 総合型地域スポーツクラブ設立と活動促進	県・市町村・ 団体	
	○指導者の確保と活用	→ 各種スポーツ指導者の確保と派遣体制の整備	市町村・団体	40
	○スポーツ少年団の育成	→ 各種スポーツ少年団活動の促進	県・市町村・ 団体	41
	《各種交流事業》	→ 各種交流会の充実	県・市町村・ 団体	
	《日独同時交流事業》	→ 日独同時交流の充実	県・市町村・ 団体	
2	職場スポーツ活動の促進	→ 職場における競技スポーツの振興	企業	41
3	スポーツ大会の開催促進	→ スポーツ大会への参加機会の提供	県・市町村・ 団体	41

## 5 スポーツ国際交流の推進

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
1	国際スポーツ大会の開催	→ 各種国際スポーツ大会の開催検討	県・市町村・ 団体	42
	《'98体操競技ワールドカップ決勝鯖江大会開催》	→ 体操競技ワールドカップ決勝鯖江大会の開催	組織委員会	
2	スポーツ国際交流の機会充実			42
	○スポーツ選手の派遣・受入れ	→ 国際友好と競技力向上をめざしたスポーツ交流の推進	県・市町村・ 団体	42
	○スポーツ指導者の派遣・受入れ 《優秀指導者派遣・招へい事業》	→ 競技力向上をめざしたスポーツ指導者の交流推進	県・団体	43

## 6 スポーツ施設の整備・充実

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
1	地域および市町村域のスポーツ施設の整備	→ 身近なスポーツ施設の整備充実	市町村	44
2	広域的なスポーツ施設の整備	→ 広域的なスポーツ施設の整備充実	県・市町村	44
3	県域のスポーツ施設の整備	→ 県全域にわたる事業のためのスポーツ施設の整備充実	県	45
	《福井運動公園・その他県立スポーツ施設の改修》 ・テニスコート、馬術競技場等	→ スポーツ施設の改修	県	
	《スポーツ施設整備事業》 ・2巡目国体等を視野においた スポーツ施設の計画的な整備	→ 中・長期的な視点からの計画的な整備	県・市町村	
4	野外運動・スポーツ施設の整備・充実	→ 自然に親しめる野外運動・スポーツ施設の整備充実	県・市町村	47
5	民間スポーツ施設の活用	→ 民間スポーツ施設の利用促進	県・市町村 ・民間スポーツ施設	47
6	学校体育施設の整備と地域への開放			47
	学校体育施設の整備	→ 多様な体育学習のための学校体育施設の整備充実	県・市町村	47
	○学校体育施設の開放の促進	→ 地域社会との共同利用施設としての開放促進	県・市町村	47

## 7 スポーツ推進体制の整備・充実

No.	施策・事業	計画期間(平成10年～22年) 内 容	実施主体	本文中 ページ
	スポーツ推進組織・団体の活動促進			48
1	○体育・スポーツ行政組織の整備・充実	—————→ スポーツ活動振興のための行政組織の整備充実	県・市町村	48
	○生涯スポーツ団体の組織整備と活動促進 《生涯スポーツ団体協議会設立準備事業》	○—————→ ニュースポーツ団体の組織化と活動の促進	県 県・県体育協会・団体	48
	○競技スポーツ団体の組織充実と活動促進	—————→ 専門化・高度化に対応するための組織の充実と活動促進	県・市町村・ 団体	49
	○学校体育団体の活動促進	—————→ 児童生徒のニーズに対応した活動の促進	県・中体連・ 高体連	49
	○体育・スポーツの顕彰	—————→ 体育・スポーツ活動振興のための顕彰の促進	県	49
	2	スポーツ医・科学推進体制の整備 《スポーツ医・科学推進事業》	○—————→ 科学的・合理的なトレーニング体制の確立と推進	県・県体育協会
3	スポーツ情報サービス機能の整備	—————→ 効率的な情報の提供	県・市町村・ 県体育協	50
4	体育・スポーツの安全対策の充実	—————→ 安全対策と応急処置等の体制の確立	県・市町村・ 団体	50
5	スポーツ振興のための支援			51
	○スポーツボランティア活動の振興	—————→ スポーツボランティアへの理解と活動促進	県・市町村・ 団体	51
	○スポーツ振興のための財源の確保	—————→ スポーツ活動への理解推進と財源の確保	県・企業	51
	《スポーツ振興基金事業》	—————→ スポーツ振興基金の充実	県・県体育協会	



資料編

# 社会体育指導者

(平成9年度)

<u>文部大臣認定指導者</u>	<u>関係団体育成指導者</u>
<b>地域スポーツ指導者 (366名)</b>	<b>レクリエーション指導者 (268名)</b>
A級 種目別 4名	インストラクター 255名
B級 種目別 48名	余暇相談員 3名
C級 種目別 314名	余暇開発士 2名
	福祉レクワーカー 3名
	1級 (旧資格) 5名
<b>競技力向上指導者 (58名)</b>	<b>体協関係指導者 (旧資格) (50名)</b>
A級 種目別 2名	スポーツ指導員 30名
B級 種目別 16名	トレーナー、コーチ 20名
C級 種目別 40名	
<b>商業スポーツ施設指導者 (19名)</b>	<b>スポーツ少年団指導者 (3,589名)</b>
A級 種目別 1名	認定育成員 40名
B級 種目別 2名	認定員 1,287名
C級 種目別 16名	登録指導者 2,262名
<b>スポーツプログラマー (24名)</b>	<b>県・市町村育成指導者</b>
2種 1名	派遣スポーツ主事
1種 23名	スポーツ主事 28名
<b>少年スポーツ指導者 (30名)</b>	<b>福井県体育指導委員協議会</b>
上級 1名	体育指導委員 706名
指導員 29名	
<b>レクリエーション指導者 (37名)</b>	
コーディネーター 37名	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">福井県スポーツリーダーバンク</p> <p style="text-align: center;">登録指導者 1,071名</p> </div>	

## ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要

## 種 類 別 設 置 者 別 施 設 数

(平成8年度)

	県 立		市 町 村		小 計		民 間		職 場	合 計	
	箇所	面数	箇所	面数	箇所	面数	箇所	面数	箇所	箇所	面数
陸 上 競 技 上	3	4	7	7	10	11				10	11
野球場・ソフトボール場	2	3	56	70	58	73	1	1	19	78	93
球 技 場	1	1	7	7	8	8	1	1	1	10	10
多目的運動広場			39	39	39	39	2	4	13	54	56
水泳プール（屋内）	1	1	12	15	13	16	12	20	1	26	37
水泳プール（屋外）	1	1	29	39	30	40	1	1		31	41
レジャープール			2	3	2	3	1	10		3	13
飛込みプール	1	1	0	0	1	1	1	1		2	2
体 育 館	1	3	76	80	77	83	1	1	18	96	102
柔 道 場	1	2	6	7	7	9				7	9
剣 道 場	1	2	7	8	8	10				8	10
柔 剣 道 場			7	7	7	7				7	7
空手・合気道場	1	1	0	0	1	1				1	1
庭 球 場（屋外）	4	24	56	193	60	217	7	28	36	103	281
庭 球 場（屋内）			3	10	3	10	1	1	1	5	12
相 撲 場（屋外）			1	1	1	1				1	1
相 撲 場（屋内）	1	3	1	1	2	4				2	4
弓 道 場	1	12	9	57	10	69				10	69
ア ー チェリー場			1	1	1	1				1	1
馬 場	1	1	0	0	1	1				1	1
アイススケート場（屋内）							1	2		1	2
ローラースケート場（屋内）							2	2		2	2
山 の 家			3	4	3	4				3	4
ト レ ー ニング場	2	2	9	9	11	11	5	5	11	27	27
ボ ク シング場	1	1	0	0	1	1				1	1
ダ ン ス 場			1	1	1	1	1	1	1	3	3
射 撃 場	1	1	1	1	2	2				2	2
ゴ ル フ 場							12	12		12	12
ゴ ル フ 練 習 場							12	535		12	535
ボ ー リング場							6	132		6	132
漕 艇 場			1	1	1	1				1	1
ゲ ー ト ボール場	2	6	30	112	32	118	1	1	2	35	121
ヨ ッ ト 場			1	1	1	1				1	1
ス キ ー 場			3	3	3	3	7	7		10	10
キ ャ ン プ 場			16	16	16	16	2	3		18	19
オリエンテーリングコース			1	1	1	1				1	1
ランニングコース			2	2	2	2				2	2
冒 険 遊 具 コース			1	1	1	1				1	1
海 水 浴 場			1	1	1	1				1	1
スカイスポーツ施設							2	2		2	2
そ の 他			12	12	12	12	4	4	12	28	28
合 計	26	69	401	710	427	779	83	774	115	625	1,668

## 豊かなスポーツライフの指針（参考案）

（平成9年保健体育審議会 答申）

ライフ ステージ	スポーツライフの ポイント	豊かなスポーツライフ	運動・スポーツの楽しみ方
乳・幼児期 児童期	多様な遊びや スポーツを	生涯にわたる継続的なスポーツ習慣の基礎を培うとともに、文化としてのスポーツの出会いを大切にし、その担い手を育成していく。日常生活の中で、親子の触れ合い、仲間との交流を深めながら伸び伸びと遊びや運動・スポーツ、自然の中での様々な活動に親しみ、運動・スポーツへの愛 <sup>かん</sup> 好心を涵養する。	スポーツの楽しさや喜びを味わうには簡易なルールでゲーム性に富んだ内容の工夫を図る。また、調整力を高めるには、リズムカルな全身的な運動や用具・遊具等を使った変化のある運動を親子や友達と工夫したり、協力して行う。
青年期前期 青年期後期	シーズンに応じ スポーツを 可能性に向かって スポーツを	多様なスポーツを体験し、スポーツの楽しさや喜びを体感し、スポーツに主体的に取り組む態度を育成していく。個人のスポーツ適正に基づき得意種目の技術レベルの向上を目指したり、みるスポーツの楽しさも味わうなど生涯にわたって主体的、継続的にスポーツに親しんでいくスポーツ習慣を形成し、その定着を図る。	自らの興味・関心に合ったスポーツを生涯にわたって継続的にやるようにするには、学校での運動部活動やサークル活動はもとより地域のスポーツクラブ等に積極的かつ自主的に参加する。また、自らの可能性へのチャレンジやスポーツボランティア活動を通じてスポーツの楽しさを味わう。
壮年期 中年期	運動・スポーツを 楽しみながら体力 づくりを	社会人として時間的制約も多くなるが、日常生活の中で、主体的・継続的にスポーツに親しむとともに、仲間や友人との交流、家族との触れ合いを図りながら、健康で積極的なライフスタイルを形成していく。また、子供との実践・体験を通じて、運動・スポーツ活動の楽しさを子供に伝えていく。	週休2日制の広がりの中で、ウィークエンドを活用するなどスポーツを主体的に生活に根付かせていくとともに、ファミリースポーツを実践したり、家族や仲間とで海、山などの自然の中で様々な活動を楽しむ。
老年期前期 老年期後期	体力に応じた運動 ・スポーツを	年齢に伴う身体機能の低下はあるものの、主体的で自立したライフスタイルや健康づくりを心掛けそれぞれの体力や目的に応じて運動・スポーツ・レクリエーションに親しむとともに地域の人々との触れ合いを図る。	家族や仲間、世代間を超えた人々とスポーツや趣味を通じて積極的な交流を図っていく。また、自らの健康づくりに心掛けるとともに体力の衰えを防ぐためにも、楽しみ方を工夫し、主体的に運動・スポーツに親しむ。

※スポーツライフのポイントは各ライフステージにもかわりを有するが、特に重要とされる期にその特徴を示した。

## 体力づくりのための運動指針（参考案）

（平成9年保健体育審議会 答申）

ライフ ステージ	呼吸循環機能を高め持久力を改善する運動 （有酸素的運動）			筋力や柔軟性を高め 筋肉の衰えを防ぐ運動	
	運動時の心拍数 <small>（基準となる<math>\dot{V}O_{2max}</math>※1）</small>	運動の基準	運動の内容	筋力トレーニング <small>（負荷の強さ※2）</small>	体 操
I 乳 幼 児 期  児 童 期	150～200拍／分	5～15分／日	走動作を含む 戸外遊び	低・中負荷 <small>（最大負荷の30～60％）</small>	全身を使った遊 び
	<small>(70～95%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>	週3日以上	水泳 走動作を含む スポーツ		身体の柔らかさ や動きを高める 運動
II 青年期前期  青年期後期	140～200拍／分 <small>(65～100%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>	10～30分／日	ウォーキング ジョギング 水泳	中・高負荷 <small>（最大負荷の80～90％）</small> 2日／週 10～30分／日	ストレッチング 体力を補強する 運動など 5～30分／日
	140～180拍／分 <small>(65～90%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>	週3日以上	走動作を含む スポーツ		
III 壮 年 期  中 年 期	20歳代後半 130～170拍／分 <small>(65～85%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>	15～60分／日  週3日以上	ウォーキング ジョギング サイクリング 水泳 走動作を含む スポーツ	低・中負荷 <small>（最大負荷の60～80％）</small> 1～2日／週 10～30分／日	ストレッチング 健康や体力を高 める体操など 5～30分／日
	30・40歳代 120～145拍／分 <small>(60～75%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>				
	50歳代 110～130拍／分 <small>(50～65%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>				
IV 老年期前期  老年期後期	100～125拍／分	15～60分／日	ウォーキング 水泳	低負荷 <small>（最大負荷の30～60％）</small> 1～2日／週 10～30分／日	ストレッチング 健康や体力を高 める運動など 5～30分／日
	<small>(50～65%<math>\dot{V}O_{2max}</math>)</small>	週3日以上	歩行動作を含 むスポーツ		

■各項目の下限～上限の数値は、効果的（下限）かつ安全に（上限）運動を行う上での強度、時間、回数を目安を示す。

※1  $\dot{V}O_{2max}$ は、最大酸素摂取量に対する相対的負荷強度を示す。

※2 筋力トレーニングの最大負荷とは、最大筋力又はIRM（最大1回だけ持ち上げることのできる重さ）を基準とする。

- 低負荷とは、何回でも繰り返すことができる強さ。
- 中負荷とは、10回程度繰り返すことができる強さ。
- 高負荷とは、1～3回程度繰り返すことができる強さ。

## スポーツ施設の整備の指針

(平成元年保健体育審議会 答申)

施設の区分	施設の機能	主な施設の種類の	施設の標準的な規格・規模	具備すべき主な付帯施設・設備	備 考
A 地 域 施 設	地域住民の日常的なスポーツのための身近な施設  【スポーツクラブや各種のスポーツ行事のために利用される。】	多目的運動広場	広場面積10,000㎡程度 (野球、ソフトボール、サッカー等ができる広場)	ベンチ、バックネット、 便所、更衣室、夜間照明、 散水施設	市区町村は、人口や小・中学校区などをもとに、その実情に即して地域の範囲を設定するものとする。 幼児の遊び場については別途考慮する必要がある。
		多目的コート	コート面積2,200㎡程度 (テニス、ゲートボール等ができるコート)	ベンチ、便所、更衣室、 夜間照明	
		地域体育館	床面積720㎡程度 (バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、体操等ができる体育館)	トレーニングルーム、 会議室	
		柔剣道場	床面積300㎡程度		
		プール(温水が望ましい)	25m 6～8コース	夜間照明	
B 市 区 町 村 域 施 設	市区町村全域に機能する施設  【主として各種スポーツ競技会やスポーツ行事のために利用されるほか、施設の周辺住民の日常的なスポーツ活動にも利用される。】	総合運動場 (陸上競技場、各種競技場を含む)	公式的な競技ができる	トレーニングルーム、 体力・スポーツ相談室、 スポーツ資料室、観覧席、 レストラン、談話室、 会議室、研修室、 夜間照明	
		総合体育館	床面積3,000㎡程度		
		柔剣道場	床面積400㎡程度		
		プール(温水が望ましい)	50mまたは25m 8コース		
C 都 道 府 県 域 施 設	都道府県全域にわたる事業を実施するための施設  【主として国内的・全国的なスポーツ競技会の開催をはじめ、競技選手の養成及びスポーツに関する研究・情報の収集と提供・指導者養成事業等に利用される。】	総合的な競技施設 (陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、野球場等の屋外施設、体育館、柔剣道場プール等の屋内施設、スケート場)	公式競技ができる	観覧席、レストラン、 談話室、夜間照明	「主な施設の種類の種類」欄に掲げられた施設は、有機的な関連をもって設置、運営されることが望ましい。
		総合的なトレーニング施設		トレーニングルーム、 体力・スポーツ相談室、 宿泊施設、研修室	
		研究・研修施設		スポーツ資料室、宿泊施設、 研究室、研修室、 トレーニングルーム	
		情報センター		スポーツ資料室、スポーツ 相談室	

- 備考
- 1 障害者や高齢者などが利用しやすいよう、階段の高さを工夫したり、手すり、スロープを設置する等、施設・設備面において配慮するものとする。
  - 2 運動空間の快適性を確保するための空間・照明・音響等に十分配慮するとともに、各施設には、更衣室、シャワー室を設け、適切な駐車場を確保することが望ましい。
  - 3 ニュースポーツを含め、利用者の活動種目や技術水準の多様性に柔軟に対応できるように、体育館に可動式間仕切りを設けるなど、施設整備を工夫する。
  - 4 スポーツ施設と教養文化施設、飲食・ショッピング施設等と有機的関連をもたせて整備するなど、スポーツだけではなく、スポーツの前後に行われる活動や家族ぐるみの多様な活動にも配慮し、利用者にとって魅力ある余暇活動、生涯学習活動の場となるよう環境整備に努める。また、利用者相互の交流の場として機能するよう必要に応じ休憩室、娯楽室等を設けるなど、快適な空間の構成に努める。
  - 5 市区町村域施設としての総合体育館のような基幹的なスポーツ施設には、健康・体力相談、メディカルチェック等の機能や利用のための情報等を住民に適切に提供していく体制を整備する。

## 県民のスポーツ活動の現状

(単位%)

問い1 運動・スポーツが好きですか

両方嫌い

するのが好き	19.5	みるのが好き	22.9	両方とも好き	51.6	2.9	
--------	------	--------	------	--------	------	-----	--

問い2 この1年間に・スポーツを行いましたか

行った	80.8	しない	19.2
-----	------	-----	------

問2-1 どのような種類の運動・スポーツを行いましたか（複数回答）

68.2	比較的軽い運動・スポーツ
46.9	比較的広域にわたる野外スポーツ
36.8	競技的スポーツ

問2-2 運動・スポーツを何日行いましたか

3ヵ月に1~2日 1年に1~3日

週3日以上	15.8	週2日	15.5	週1日	20.3	月に1~3日	22.4	12.2	12.2
-------	------	-----	------	-----	------	--------	------	------	------

問2-3 運動・スポーツを行った理由は（複数回答）

63.7	友人・仲間との交流のため
49.8	楽しさを味わうため
47.1	健康・体力づくり
44.7	運動不足を感じるから

問2-4 運動・スポーツを行わなかった理由は（複数回答）

44.8	仕事が忙しくて時間がないから
33.9	機会がなかった
21.2	年をとったから

問3 今後行いたい運動・スポーツは（複数回答）

64.5	比較的軽い運動・スポーツ
50.8	比較的広域にわたる野外スポーツ
31.5	競技的スポーツ

問4 スポーツの視聴・観戦をしますか

しない

視聴・観戦ともする	40.7	視聴のみ	53.4	5.6
-----------	------	------	------	-----

問4-1 関心の高いスポーツは（複数回答）

65.8	プロ野球
41.9	大相撲
39.7	バレーボール
37.7	マラソン

問5 地域のスポーツ行事に参加したことがありますか

見だけ行った 不参加

参加した	79.1	6.7	12.8
------	------	-----	------

問5-1 今後どのようなスポーツ行事に参加したいですか（複数回答）

60.2	レクリエーション的行事（運動会等）
36.0	トレーニング的行事（歩こう会、ジョギング大会等）
33.6	野外活動的行事（キャンプ、ハイキング等）
28.6	競技大会的行事（各種スポーツ大会等）

[ 8 ]

問 6 どこが主催するスポーツ教室に参加しましたか（複数回答）

49.0	参加したことがない
31.7	市町村の教室
22.0	体育協会の教室
8.4	民間の教室

問 7 今後どのような理由でスポーツ教室に参加しますか（複数回答）

50.7	運動不足を感じるから
45.8	友人・仲間との交流のため
45.7	健康・体力づくりのため
42.1	楽しさを味わうため

問 7 - 1 どのような種目のスポーツ教室に参加したいですか（複数回答）

70.1	比較的軽い運動・スポーツ
49.4	比較的広域にわたる野外スポーツ
27.1	競技的スポーツ

問 7 - 2 スポーツ教室に参加する場合の経費は 無料なら参加

低料金なら参加したい	64.4	ある程度なら	24.5	7.8
------------	------	--------	------	-----

問 8 現在どのようなクラブや同好会に加入していますか（複数回答）

55.5	加入していない
31.3	同じ市町村内の人が加入しているクラブ
10.6	職場のクラブや同好会
5.2	民間スポーツ施設等の会員制のクラブ

問 8 - 1 クラブや同好会での運動・スポーツは何ですか（複数回答）

46.5	競技的スポーツ
44.9	比較的軽い運動・スポーツ
28.2	比較的広域にわたる野外スポーツ

問 8 - 2 クラブや同好会に加入した動機・目的は何ですか（複数回答）

71.5	健康・体力づくりのため
66.1	親睦のため
54.8	スポーツが好きだから

問 8 - 3 今後クラブや同好会に加入したいと思いますか

加入したい	50.1	しない	21.4	わからない	28.5
-------	------	-----	------	-------	------

問 9 家族・仲間とどのような種類の運動やスポーツを行いましたか（複数回答）

64.1	比較的軽い運動・スポーツ
47.0	比較的広域にわたる野外スポーツ
25.3	競技的スポーツ

問 10 どのような施設で運動やスポーツを行いましたか（複数回答）

85.0	市町村の体育館・グラウンド
34.5	学校の施設
22.2	民間の営利的施設

問11 学校の体育施設を利用したことがありますか

利用したことがある	68.4	ない	31.6
-----------	------	----	------

問11-1 学校の体育施設を利用したことがない理由は（複数回答）

40.1	特になし
19.5	時間帯が限られ、利用したい時に利用できない
13.2	個人単位では利用が許可にならない
12.1	利用手続きが面倒

問12 国際大会、全国大会での福井県選手の活躍に関心がありますか ほとんどない

非常に関心がある	27.0	やや関心がある	47.7	あまりない	15.9	7.9
----------	------	---------	------	-------	------	-----

問13 福井県選手への公的な援助についてどう思いますか 必要ない

積極的に援助	34.9	ある程度は援助すべき	56.5	3.0
--------	------	------------	------	-----

問13-1 公的な援助としてどのようなことが必要だと思いますか（複数回答）

60.6	県が設備の充実した練習施設をつくる
55.6	コーチ・トレーナーなど指導者の養成・研修
51.4	選手の練習などへの経済的な援助
28.1	トレーニングなどの研究の充実と活用

問14 国際大会、全国大会の福井県での開催をどう思いますか 一概にいけない

非常によいことだ	53.6	まあよいことだ	30.2	12.9
----------	------	---------	------	------

問15 スポーツ施設にどのようなことを望みますか（複数回答）

54.8	公共スポーツ施設の整備
40.6	自然を利用した施設の整備
36.9	運動広場の充実
34.2	運動施設を備えた文化施設の設備

問16 公共スポーツ施設について、今後どのようなことを望みますか（複数回答）

51.9	身近な施設数を増やす
50.7	利用時間帯の拡大
41.0	利用手続き・料金の支払方法等の簡略化
30.1	指導者の配置

問17 スポーツの振興のため、県や市町村に何を望みますか（複数回答）

50.9	スポーツ指導者の養成
48.7	スポーツ行事・大会・教室の開催
33.4	野外スポーツ活動施設の整備
32.2	学校体育施設の開放・整備

調査期日：平成8年9月～10月

調査対象者：県政広聴員（250名）一般県民（750名）

有効回答数：860

## 用 語 説 明

### 【スポーツライフ】

スポーツが生活文化の一つとして日常生活の中に取り入れられた生活

### 【ニュースポーツ】

既存のスポーツのルールや用具を簡易にしたり、新たに考案されたもので、だれもが気軽に取り組めるスポーツ

### 【全国スポーツ・レクリエーション祭】

ソフトバレーボール、ゲートボール、バウンドテニスなどの種目別大会やニュースポーツ等の体験教室、特別行事など、多彩なイベントが開催される全国的な生涯スポーツの祭典

### 【スポーツライフ推進事業】

スポーツを生活に欠かせない文化として根付かせるため、企画・運営委員会の開催やスポーツ教室・大会の開催、有資格指導者の配置など、市町村におけるスポーツ環境整備のための事業

### 【スポーツ医・科学体制】

メディカルチェック（スポーツ医学面での診察）にもとづき、スポーツ心理学、スポーツ生理学、動作分析、スポーツ栄養学、体力分析と運動処方などスポーツ医学やスポーツ諸科学による多面的な支援体制

### 【めあて学習】

児童一人一人が自分の持っている力に応じためあてを立て、運動の仕方を工夫しながら自ら進んで取り組む体育学習

### 【生涯スポーツ社会】

だれもが人生の各ライフステージで、欲求や体力、目的等に応じて、いつでも、どこでもスポーツが楽しめる社会

### 【総合型地域スポーツクラブ】

中学校区単位程度の規模により、複数の種目から組織され、子供から高齢者までスポーツを愛好する地域住民が自由に参加できるコミュニティーにおけるスポーツクラブ

### 【スポーツタウン推進事業】

地域住民のニーズに対応したスポーツ活動により一層推進するため、学校、地域、職場等のスポーツ施設を総合的に活用するとともに、コーディネーター、インストラクター等を配置し、地域全体をあげてスポーツを通じた町づくりを実施する事業

### 【一貫指導】

選手の発育段階（小・中・高・大学・一般）に応じ、競技ごとに統一された指導理念に従って段階的に指導すること

### 【スポーツドッグ】

競技選手としての身体状況、機能面、心理面などを総合的に診察・分析するための機能を持つ施設に入所すること

### 【選択制授業】

中・高等学校において、2つまたはそれ以上用意された運動について生徒自らが学習したい運動種目を選び、運動の仕方を工夫しながら主体的に取り組む体育学習

21世紀を展望した  
福井県スポーツ振興プラン  
－ 豊かなスポーツライフの創造 －

発 行 平成10年3月  
発 行 者 福井県（教育庁スポーツ課）  
〒910-8580  
福井県福井市大手3丁目17番1号  
電話 0776-21-1111(代表)



生涯にわたるスポーツの推進

生涯にわたるスポーツの推進